誹諧

雪月花

上

へ 5
6611
1

ヘ5
5611

新版
改正

手習大成

玄 いろはにほへとちりぬるを
嫌 わかよたれそつねならむ
因 うゐのおくやまけふこえて
操 あさきゆめみしゑひもせす

漢和百

ロ竹亭著 自序 <2000-447>

911.307
917k
v.1

序

古人の教ふるところ
のうつり移るまことに
世のうつりかはるにつれ
て古風を捨て新しく
あらたまるこそ
の為をそ
ひとへにあるな

早稲田大学
教育学部図書

60442

しるんやとまのよるとさらの
ふるさとと何とは明の春のけの
さらにひのれて人おのせみなり
所詮哥は明るとぬ

洛下
所亭

俳諧なぐさ紀綱目大成目録

一 俳諧之事 上一丁
二 俳諧六体 上二丁
三 俳諧六義 二丁
四 俳諧諸部之發句 三丁
五 俳諧三十体 七丁
六 俳諧大意 八丁
四 等類差別 十丁
五 發句切字并習ひ切字 十三丁
七 現在載る歌 十九丁
八 三ノ一 廿丁
九 手ゐ所のね 廿丁
十 七りのや 廿丁
十一 ゆて留おき人字 廿二丁
十二 そうよ三字 廿三丁
十三 疑字上ゆゑ下とて留 廿三丁
十四 下の句てとめ 廿四丁

十五 下の句ふとも　廿四丁
十六 法くとまり　廿四丁
十七 凡ゆとまり　廿五丁
十八 とそてふと　廿五丁
十九 云のとすてふと　廿六丁
廿 云移字はとまり　廿六丁
廿一 治定してとね字　廿七丁
廿二 治定しとまり　廿七丁
廿三 治定のり　廿八丁
廿四 ぬきひと地又　廿八丁
廿五 八字九分所　廿八丁
廿六 一句二句の成句　廿八丁
廿七 詣合の法法　廿丁
廿八 同字別吟　廿一丁
廿九 自數并去嫌　廿二丁
卅 神祇之詞　廿三丁
卅一 非神祇詞　廿四丁
卅二 尺教之詞　廿四丁
卅三 非尺教之詞　廿五丁
卅四 戀之詞　廿六丁
卅五 非戀詞　廿八丁
卅六 無常之詞　廿八丁
卅七 速懷之詞　廿九丁
卅八 非速懷詞　廿九丁
卅九 人倫之詞　卅丁
四十 非人倫詞　卅一丁
四十一 居所之詞　卅一丁
四十二 非居所詞　卅二丁
四十三 夜分之詞　卅二丁
四十四 非夜分詞　卅三丁
四十五 山類之詞　卅四丁
四十六 非山類詞　卅四丁
四十七 水邊之詞　卅五丁
四十八 非水邊詞　卅五丁
四十九 四季之詞　卅七丁
五十 面句并裏頭挙句　卅八丁
五十一 百韻并卅六分歌仙　卅九丁
五十二 臨席覚悟　四十丁
五十三 執筆法様　四十一丁

○さうきうひ　下り一丁目

漢和式

一　第唱句之事　孝　一丁目
二　二四不同之事　カンナ　一丁
三　四字一平之事　二丁
四　避下三連之事　二丁
五　平仄起之事　二丁
六　漢和一座法式之事　二丁
七　對句之事　五丁
八　假名書之事　六丁
九　連綿字之事　七丁
十　二物之事　八丁
十一　三物之事　九丁
十二　底返之事　九丁
十三　朱引之事　十丁
十四　文字用の採事　十一丁
十五　如書文字之事　十四丁
十六　四季文字の事　ほよ終

○かなづかひ大槩　下り八十六丁

一　誹諧之事

奥義抄云溢書飛諧者滑稽之滑八如字稽云八河不由也

史記滑稽傳ノ考物云滑稽云八酒器云八出成章詞

不窮竭若滑稽之ノ士酒也　○誹諧乃古ハ戯ごとくらひ之ものよ

りて皆人戯言とゝくらひ必しもあらざるもの今案に滑

稽云ふ事ハ道理ゆゑ道理ゆゑ道理ゆゑ道理ゆゑ

五道よりあらざる事ハ義とゝのべる事ハ故よりもと滑稽

に准そ其ハ無益利にあらずの言語ばかりを火と

も水ともいひなすも也或ハ狂云ふ事ハ義とあるべ

此中、八雲御抄ニ云或説曰俳諧有様ニ俳諧三俳諧四滑稽五諧謔イニ誹ー六謎字七空戯八鄙猥九狂言イニ狂云

或義ニ俳諧八祈もゝをして狂云ふ俳諧八体狂云ふ俳諧八狂字からとばのうつる俳諧心ゆくべき実ぞ和歌すべて狂ゝ云ふ滑稽云ふ面白ふ

謎字なぞくのやうにいふ空戯八向ヨ戯(タハフレ)て実ならぬ也

鄙猥いやしき狂ときこゆ云ふ狂云ふ俗ヨおかしきやうにいふ狂云ふこゝろ説ヨ火とれとまのげて云ふ也とぞ

(二) 俳諧六体

心赤説　みな人は云ふ緑のうすもや秋の月　可全

詞説　乃ち代ヨ代ヨ代やかざり縄　正芳

心利ハ　員をまゝ石ふるおもいぐさん　利冬

詞利ハ　はぐ事ゆるヨけなくぎんしく

心粗　小傾城ゆさてなぶん年は暮　其角

詞粗　京清もいと花見はいと十云清　そち我

右六体引分いづれも奥義ヨ見えあり凡俳諧のるも此六体をいづる事ヨ我ら好ヨ

よりて他をそ〳〵はるヨ

風　(三)俳諧六義

八雲抄よ風ハうゝ〳〵ゝ宗匠ハ流よ風といふあへて世ゝ
乃ゝ〳〵ゝまで和よ世ハせてもゝ和わゝうゝたゝゝ

ちゝしかくれゝる人よ対して

生んいゝゝゝ人梅をゝ公乃ゝゝ花ゝ　ゝゝ世を

賦　八雲抄紙ハかうゝ〳〵ゝ宗匠ハ流よいんを二公篇よゝゝゝ
さるの義ゝんかをゝうゝゝゝ

うき事ばおりへ事うつる秋の蟬　晩山
無常
かく斗かゝる姿やほうしのぶゝ　鷺水
表傷
我ゝとゝもゝ世十世ゝ世ゝ花の華ゝ　和及
四十四ゝ
辞世
人のゝ美しゝさそ涙まんぢゝうそもゝ菊ゝとても　方山
進善
数芸の基所ゝ
よゝやゝ悪ゝ拙ゝゝゝ重ゝもゝ居ゝさゝ　徐素
情旧
義ゝ川ゝゝかゝやゝゝくゝて菊ゝゝけ　軒柄
述懐
百姓の子二男三男ゝれくゝよ仕居ゝゝまゝて
落葉若荷果敷ゝゝゝべの家居ゝゝ　知足
徒移
玉水ゝゝ
名所
山吹やさうて蛙ゝ水の底　思貫
名物
かゝゝゝ

詩

千妹乃きよめこいまさこそ月　巨海

こゑきこもちるゝ風さえ乃ゝ波ゝ哉　長之

欲

たゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

心俳諧　とひ出て地あつき柳このれ　戈九
俳諧　猫乃ごきゆりびの貝や行ゆひ　琴風
俳諧　間瀦をらしやそかんれ小ちぐき　鷺助
寂き猶　月郎とら柳ちれ所あまるを　素堂
老き猶　うたくねや見ぬあくれ樣かるを　卷雪
切ある句　傘エが日和を星ゑ向うか　渓石
猛る句　畠よそふて三月七日八日うれ　信德
感情句　吾が身に秋風寒し親二人　松濤
品有俳　袁乃ゑとろくゑゆるうれ　月

なるくさ
かやとの句　なき葉乃石蘭よ鼠出次　鼠
上童あるを粽乃ほぐきゆ
ねあくべあるとくと
毒よほしき樣ようゆる柳ゆ
氏文字とトまそうくある句
河乃緣よさりあるる句　星に七夕牛よ蠅
ようぎはく屋うれまくん天竹
失るあるよりひるす体
かる紙うわて濱乃ん塩干ゆ
おもしろき所　ろうけあるる句
三ケ月に梅ゆおうれ
毒乃ねむり蔵する柳うれ
樹そぐれ花いすべて上へ野ゆ

調柳　西吟
竹亭　常矩
道柯　如泉
不角　琴風
行秀

そよ成て蔦清くらしとぞ思ふ　二水
味なくへみゝれぬ蚊ぐれとうこぶ　知扇
鰭乃くもて蓮をいくよ幸ありれ　月恍
蓮瓶乃せそい中もうき葉ぶ　明水
六月や峯に雲をく嵐山　ちゑ
かまこ芦や漕れ櫓を捨と捨小舩　蘂水
麦飯し一個とぞ人ごつう徒ぶ　荷兮
蓮池よ生れて蛭ぶれ　言水
藤乃花ぶ人ぶ人ぶ　和及

ぬるくたくまゝき
三芳壁ハ花ぶ清くよて山もあり　作者不知
ゆうくかゝひゝゝ
炉乃蓋竹や家さむと思ひよる　越人
ゆんりやさきあ
花ぶうき風や柳ぶ乃ちまき　梅盛

五

俳諧三十体

幽玄体　日くれぶ乃みゆりや蓮さゝ　玄圃
行雲　天もむうゝゝや雲けみゝれ足　元北
廻雪　竹風れ相ゝや雪よ月ひゝ　聖ゝ
張高体　峯乃雲すゝゝふむもまゝ所べし　其角
高山　名月や雲乃うへよ　雲乃　幼景

遠白　月乃名を峰に分るなりや天は丁　立夕
清流　緑よりもむ水すきまや清乃城　樵叟
みんしん体　世よつまて道踏ゆかつぶり　友允
物義体　義嵯峨世乃これ世を問まさえ　明水
不ぬ　花乃雲雖ハ上聖ゆ浅きの　たを城
理世　緑風乃ぬ月ゆ人老良　杉ゆ
絶民　山中や菊ハ多ゆ彩ど湯れ白ひ　たを城
至極　菴ゆ来て鶯竹よゆ清ゆ春　晨風
麗体　ちるむや硯を乃を問帝れゆ人　暮四

存直　ゆきゆれ出を乃ゆ友聖ゆ　一笑
花麗　ちゆ雲をとゆ乃きれゆる梅れ芸　竹亭
松木　つさをわんゆ乃むれゆ〜ゆ　常友
竹軒　里ゆす竜ゆを松乃さゆゆれ　聖ゆ
夏可絶体　元日や家よゆつれを力をゆむ　玄来
秀逸　唐崎乃雲ハむゆれ松ゆれゆて　たを
拔群　色ゆくをゆゆゆゆゆゆ乃ゆ〜乃山　負室
写古　都冊ゆ〜ちゆを雲も春〜ゆちゆを　来山
面白体　ゆゆゆて雲ゆ乃ゆれ雲ゆ乃ゆを　たを

一色　鶯乃二疋よ成てタこうが　仏圭
系曲　松浦や日ぬりの本有れりを　維舟
農本　よくこわと蒔花咲垣根乃　もゝを
忍様体　むりてさす槻八ゑもう山さそう　心直
一節体　富士よ入日を宮蝶やそふれ月　甚角
特別な　何をこそ皮岩乃入日人だうり　野貫
強力　あを伐て投出しうやそふ乃月　朋水

三　誹諧大意

俳諧乃名とい人ふにもあれ　くあり中げ今古乃俗云と姫

ゆゑ用ゆべし　然ら南風ひいげ　られ乃ようゑ多や
ゑき絢ゑと用ゆるべし　いく　投よ後ゑ落俳諧
よ連俳両用乃絢とい人ゑゑ　或ハ九帳屏風詩歌ゑど
い人ふ歌連ゑもゑり俳考方ゑを用ゆ但ゑゑり
ゑめるゑも蝶菊ゑでゑ長句俳ゑゑべゑゑ方ゑり
ゑるべし　ゑよ俗り歌ゑ　猿ゑる云葉ゑり中ゑ
連よ俗例　ゑくハ俳乃ゑゑ　ゑるべし　或ハたゑき
山ゑゑい人ふゑとたゑい山法べる　れとむゑんされゑど俗
くゑゑ中一字俳云ゑどゑ　ゑひく人ゑゑりきゑゑる

なまこと云へる物の長さ五寸許なるを連ちんちんなどの様
なるひかはせもあるなり きりぎすとも云へり
又連の面にうつりて出るなり と能の面にも
出しまた百韻に始へる句に百韻に開ひらく云葉
又きりぎすとも云へり 桜木 遠田荻乃葉などの類
かくいひなさは能の事なれども但此ごとくひろく其
句をとりて能にあてはめるもあり 能名所
仕例 たとへば地位入なるものなりたとへば
早苗やる竹田乃里ほたるなります

あどいへる是は竹田に郭云 侍る能例もあるなれども但仕
例あるも其所をいとりて眼前に見るとやうなる
句をとりたるなり ナルトもあるなれども其人をとりて連ねる
も成べきなり 付句に成て能例もなれば取出る能乃事に
ひろくべくなれども能諸といへる仕者れ玉極ものへ入れ也
雲をあくなるそみ
花はたをくなりそそこそ白雲と故人乃見えられ
る処なれなれとよいろ眼前お花とをなて雲といへる
処に能なり此換のこと限りなく打こへる処に能云也

なくて元祖の用ゐ白みを加へ人〻真塊くゝ史
みゝ長赤鮒云有なゞ〻其白れ仝連よなる白あり
其八百れ足者志なゞきか拵ル
元と足者志なゞ〻拵れくゝとい仝連よるゝそ始人家
人もゆり元八邪正道進正道邪乃きゝ乃そいる鮒乃
乃塊よりゝ〻ゞ〻人其誤こ元塊紙乃鮒よなる白あり
ゞ元なゞいゝる玉く源きんゆるゝ志ゝゞくゝそ

四 等類差別

白八きゆゝりなくゝそ人紙いゆりゆるゝ有

紙とりてきゆゝりれゝ白を出ゝ仰んよゞどゝあれ
なゝゝんやゆゝりそゆゝゝもてゆゝん其ゆゝん拵と
真ゝゆゝ白ゝ真を邪ゝよゝひゝくゝゝ志ゝ白
と盗出ゝゞゝくゝも有めゝゝすゝゝ元ゆゝ
ゝを等れをゆゞれゞゝといちゞ紙道れせゞくなゝめゞ
ゝ本中ゝよゝ紙ゝ唐ゝ黄鼠直換胥棄胎乃二法と立
くゝれ本中ゝとゆゝをゝりいゆゝくゝれゝゝりゝとゞきて壽蒙
志ゝをゝりゝもやゝゝうゆゝさうひゝとゆゝちゆゝゝりくゝそ
あゝ典やゝ食れ家も乃ゝそゝ

乃ろかるく初と荒屋は鶏頭花

又

庭は尾ハ中〳〵ちらくしら為堂

初毒やたゝひとよりぬ後　壹

花白さもハ陰ろ〻ゆ等れと乃うれ〻〻や梅花

ハ鶏頭花ゆかゝひ荒屋ハ食乃家さもうゝ〻ち作る

庭は香初毒乃白とまゝ〻〻かくれぎゝ〻まゝ

ちりく〻ひ常〻〻ぬ〻りへ家さ乃〻〻り

組着はちゝゝハ紙ある所とゆみ〻と呉〻〻乃堂

乃花は人の初毒ゆゝ〻ぬ白とゆゝいへゝ〻く

ちまゝゝ〻ハ紙ハ初毒ゆゝ〻ぬ白とゆゝいへゝ〻く

のゝ〻〻白をゆ毒ていく〻〻乃乃乃ゆ初を

花山やゆゝりてゆゝ乃出所

稲毒やゆゝけてゆゝ乃ハいり乃

〻〻紙ハ初乃紙ゆゝ〻だゝ〻〻ゝゝ初名別ゆ〻

ちく〻ゆ毒ハゆゝかゆゝ〻ゆ不易ハ其意而造ル

真詰謂之換骨法とゝ〻ゆゝやかゝゆゝ作ゝん

みは白ゝとゆゝりし道ゝ小意かり

此門を曜し事をすれかたうと
これ白ハ又心かゝひ別名乃如ときそ親操其意歌ニ
客之謂こそ棄胎はとゝ人おもちくやゆらん

五　桜白切字

信德

作之の式　為景うりまくこそ荒れ林　式

櫻川幕乃さそ見かく散中で　華堂

春むく　鶯うゝ　はきるれひとりぶ　湖春

ゝ乃宗を松てきくうゝ　ゝこれを分ハゝちひとかゝ　林下

ゝ白切　霜川あるやうとみる人おうゝ　一言

なくもぐれ初雷ひるびうり　知足

乃ゝうゝるゝ代もかゝるゝ　信正

こまうゝ海乃長風秋乃ゝれ　一鉄

木のゝ川果ハ宵行り海のをと　言水

植ゝうゝ蘭麻ゝ乃ゝつゝ　秋雨

ゝれくゝ東白ゝ月の暮　玄来

都ゝゝ小桶ゝ鉄ゝゝを　高政

独乃ゝるゝはゝゝゝ杜ゝ　周也

風ゝ川ゝゝゝゝ里　如琴

大内人とあるめり
いかにまのぐしまうみ不板ぬ
ぬ
翠
落かかる桐乃葉かつらひらへる
木繰（コラグ）稜（スキ）雪まろたる稜あり
赤茅
そげ手人法井茅かりの茅
羅も桁よりあたハせへ
花ゆくだくる人ゆゑ七夜
何ゆゑ一つ咲（タ）袋裏ゆく

和之
荷翠
竹帝
山川
桐葉
野水
文鉞
竹翁
東海

花宵て大ゆくゑ
つゞ碎く蓋ゆて色桃の花
くゝべる拙よあるとゆ夏八あ
行女みゝゆ行ゝ
鰹青峠よ行ゝ
世失て魚乃骨（ホネ）撰（ヒル）のゝ生（ミヤ）尺鯨
彦（ヒコ）ゞ女乃雛（ヒナ）かし
匂ゝ我伽羅よ根を燒杜
唐乃蓑ゆ八行ゝ八

常矩
松笛
土芝
軒柵
運達
方山
嵐亭
白文
嘉斗

かしま　和及
傾城は新みとかしの池乃鷺　古根
完来乃のりるか曳れ乃月　妙泉
井戸の菓乃函根ゝゝ　一水
武ゝゝ　ゝ葛蒲草
やハらハ　ゝらゝ者ゝゝ　宣元
しを　ゝゝ聖灵會
なり　徒寄まやハ的方　唐木
ゝゝ森ゝ花
ゝゝ弁ゝ　芭蕉
ゝれハ　ゝ
白魚ゝ價乃ゝ　ゝ
貧ゝゝゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　

みど
いく
それ
そう
きぐ
かも
いり
きそ
いさ

人はかどちるとてねぬかりけり　蓮水
みとりさびいくれそくれぬ人はたの暮　其角
ぬ！はれ木ばかりあるとて秋乃わわ　尚白
色きぬはそうそうと鶏とくれて　汁三
そぐ乗りて石のくるる初さらく　常牧
菜刈てかるかをたうす雪ち岸　明水
あぎ去よいつち粒とて麦一穂　玄賢
ほ代ぐ祇宮清水ちむ乃去　季吟
ホハいざむよ母ふ考きるる母　軒柵

いざ
り
よ
ぬ
れ

いざちゝだ寄乃へよ所きく　芭蕉
月いさ川底沢間よ一おうぎき　竹伴
白魚ち餅よあるぬ拍よれ乃あの　貞隆
みゝ家元乃へるゝ元よりあるべ　幸佑
蓮茎ゝ貝とひかゝ家ゝそちよ　山店
肉ダリ志へゝ心義きそりぬ高蕭賞　桜叟
古足タビ代長ち四十に足と踏ゝぬ　荒雪
ワゝ心鞭ムチ り 足ゝれ 桜 狩　松木
乃麻をさかゝいへをりれ　宗雪

や

ゝしやてる秋松丹乃ふかあてうさ　文九
そうくやみそてもぎ賞ぬそくいあ　梅民
わうてや蜂を落もめうてうぐ　其角
花ふれや拍よすく人をかぬ人　不及
庵寄やとまりのうめうて初時雨　随友
白雲乃そりやゆ冒わうぬ山　炮水
家うりふちうてやかくて菊畠　軒柳
乃てるかをも蹴うもちんや柳うて　如生

下知

よ

うれうてうさ乃ちよ秋てうて　竹系
心わうを炭竈ぬれ芳野山　竹翁
ぬ人ふみにうてをのぬ秋てうさ　竹亭
常住をぬるまひ人庫のうま　影堂
ちうぬほてきうてうあれむ風　道柄
ぬ者てゆ者ふ花ふりぬ人ふかさ　如泉
うこにやてをちうぬ人ぬ仁王門　正時
せひあうを廓ふ分へちあり　我黒
め唐寄乃雲ふ花へめりうあ　春林

れあるそいひぐてーよつひろくて切字に用ひてる事なり

俱黄鶯いひろ事とそれ共ぬ事なり叩ぬ事なり伝野鼠

二字切　月と書ぬくやこの乃君女七夕　風虎

伝もしの笑ともろくに二ツ星　風山

三字切　うぐくみよ何乃春も梅乃花　臭室

(六)とはり乃切字

筋違ハ乃ぞ乃ぞ乃ぞ　玉雪

藁よりへ福乃ゐるとの門の雲　一春

○とは切字有て下と載留

煤やとくめぐるく京乃ぞれ水　梅岡

傳ふ云後ゝ逢ゝる五文字上の切字有て載とやそうる

○ゝり留

若ゝし茶屋もむこる人ハ歳ゝ行り　可全

初秋とゐりゆしゝその緑ハ歳ゝ行り　来山

傳ふ云七文字ハ終とよと押ハ切ゝ事すれ云更有べ

○三岩切

同ぬ笑ゝ楽ハ水ハ初鰹　素堂

三段切ともいゝり

○大ぬり

うちえて。天竹乗るぞ。まさ〳〵失　虎海

うちゑて。まさ〳〵めとさりてる也

○玄蚊切

鴨ちぬハコ舞や叶ぶ〳〵ん　林間

初ゝの輩（ともがら）きべ紀（きの）まゝよハ叶ぶ〳〵ぬ

○切字ぶ〳〵て可（キ）育ぶ別白

光ハ〳〵ぶ〳〵て芳野ゑ　真室

余乃巻に人おぼえるをもて和歌

慣（ヒ）られて字〳〵ゑる人を乃　蠅　其角

これ〳〵ぶ白の切字ぶ別ぶ乃ぶ〳〵ぶ切字ぶ〳〵て初ゝ

きべき事ぶ乃ぶ〳〵ぶ

右切字ぶ〳〵大概（カイ）とゆ者ゆり抜ぶ〳〵ハ乃紐変（ヒモヘン）完

乃紐ぶ〳〵の切字ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵

る人おりさまゝ白と引作る

松ゞ食りゝみてらつく桐　ゞり

又ゞ　きゝ乃三字ハ連歌ゝ　なきさうあいだんて作分

殊り　歳海乃俳ゝ人乃月ひ　ゆるるとみゞと　ゆうれ

白ゝとりて不定

七　現在乃哉　ゝき哉

現在乃ゞ　麦白ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝき哉　十四歳　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

こゝゝいづゝゝ　俳士ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

八　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

乃ゆしゝ秋ぞ　てもるかすみとふ乃ぬとて切を仰ぐ
みるかれゝ　初ぐゝひけゝう声ぬうて年ぬるふ乃ぬ
ゝも成年ゝり

尽ぬ　きえぬ　もれぬ　たえぬ　あまぬ
きへゝけゝて　えめゝれゝたゝうはぐゝきゝ多るぬ乃ふゝ
くゝまぐゝゝゝぐゝたゝうゝ乃ゝはぐゝきゝて　高ゝゝとぐゝきゝ

(十)七ゝ乃やゝ　ゝ　弟

ふゝひ乃や　ゝゝや　春ゝ月ゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝゝゝゝ

世やかやうやうやうとうとうと

も

何度も道ゆきかくさいたりて
かくぬ　抱て世の人ハをしかりぬ命ハて
ゆく　都鄙人ハ抱と号へを不自由ハて

此外ハ又

故生命孫ハ名ハ梅なる和りて
保ハ云これ白ハ故生命ハ字といひ乃字とい乃字
なるそしみをもある故ハ梅ハ二合ハ中ハ
二所抱るるをゆり
実植きゝ花をるる命ハ

又生ハ字ハ故ハ人ハ事ゆり去ハ乃ハ
ハ乃ハ字ハ故ハ人ハ字ハ
ゆゆ虚字ハ故ハ人ハ字ハ
てをとまる

(十二)引ハ乃ハ字ハ押字
そ　魚乃名と何ハ乃ハ鯉りて
う　幾人ハ去ハ戸際ハ立りて
ハ　いとゝ世ハ
ハ乃ハ字ハ乃ハ字ハ
ハ乃ハ字ハ乃ハ字ハ

ぞくれさんくいやまるこ

十三 ようこうぐひの文字有てと留る仕様

松に云一白より中くゝ何いくゝいくゝ初れいづきゆくゝ

くゝぐひれ字有てハてとゝ又ゝ多うがて一結れ

ぞとゝ多うゝ多うて多くゝ

いくゝよ いくゝよちんあり〻ゝ むゝ松おきくく

いつしゝ いゝゝゝゝゝゝ 六植ゝ松れ多みえて

いづこ やるゝゝいづくれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ倍よゝゝくゝくゝぐひれ字有とゝくゝも服前ゝゝれ

ぬゝとゝ結ゝ定るゝゝゝゝゝゝゝ抜ゝて と留ゝ多く 拾ゝ変

十四 下ゝ白ゝれてとゝ

陰ゝれ月ハ去ゝうくゝそゝて

中ゝひゝくゝゝハ戒とたゝゝらて

此二白れゝゝ文字ゝくて又ゝくゝ

十五 下ゝれ白ゝゝと先

鱗ハ芝ゝ月いまゝゝゝ

下ゝ白ゝ文ハ兼義ゝくゝめていひ出ゝひて其搭と

用ひきくゝゝぬきゝゝて称ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

去ほく留

まゝこの人ハ猫のまたぐ
ことをいとひて食べ
ぬ人ハ外りとこ
ろへ
蔵虎(クラヒイタヤリ)ハ切りもせず
下ハ白ハほくとあハ
ひとそたるゝれど
こそうゝ人ハ
佛ハ無ひ征(ドラ)きてきほく
いたくのをとハ白ハほく留ハさゝゝゝひとゝゝ
ゝゝゝゝいづをとそ留ハ作ゝ

十七 ハ白留

ゝ葉ハあいゝ塔(タウ)ゝ
小椋(ヲクラ)ハ手(テ)を人ハゆくゝ
門(モント)法ハ家のかげりせゝ
伏ハ焼(ヤキ)場きゝゝ
まゝ庵(カラモ)門ハ落(ハク)ぬゝ
御ハ山ハ鮭ゝ
暮ハ日ハ白ハ
遠ハ火ひゝハ

る　　花たち紙はり　ゆ[illegible]

大ぐさめやうにて[illegible]を多作りこのけるくてを

留しる例をかうこ[illegible]かくかりて紙白ハ

やかむまし[illegible]也

十八　これをといひていへけせてねえめれとるこ

け　多うてなく[illegible]と[illegible]かも

せ　膝とりそはしせ寒耳のかく[illegible]を

て　炭改して　煙とハ[illegible]て

ぬ　言ち葉よ費[illegible]ぬこんぬ

徳かれそこ人をうやまへ

親乃かるうちよこ人ちむるめ

[illegible]ハ　ちよ　ちのあるそやけ[illegible]れ

ちよ　ちのあるもこ[illegible]なう人生れ

そこそこひしかうこんとこそこひしよ[illegible]の[illegible]

十九　いひ乃こ[illegible]を糸花葉

十八　伽羅こめて侍こて[illegible]こ

十六　培風よ何を[illegible]乃ま[illegible]

[illegible]れをこる[illegible]て月ハ実[illegible]

十五　帆そはあらひとりうら　れ

（ね）ねの字

私こらんとうこうん丞　みどかかを　みどいうな

いづまいざいざいざ　みどのうこうひさなあてい

ちはうこうこうど

おど　おらこうなどんとん弧ばうん

ゑれ　りこね後これをおれ殺かうん

いろ　なやあいざいうほどみどりうん

いい　後は世ゑいかうう用ひまうこうん

や　みこうこさてやや白髪めうこうん

右あらくこなぐるゑ及びみうんとうあうれぬ

白所ていはいど　しこ尾　あうぬ　ぬうどぬ

べこうなどいい人ゑ五川のてみをこ皆うんれかうう

ゑ　あ　べし

（ち）清宣こうてこうね字

ゑ　ろ　ゑうこびてこうう　ゑ　ゑ　殺こうん

を　私乃雪強ゑうさうとうこうひうん

ゑ　ねうこうる清立ゑ　私乃ゑこうん

く

陳(チウジ)みちを要(タヅ)ねあうばでいらん

契いうと云れどもこそこそ通くらん

て

かくたくくうさぐそくめる半ようそくれ

白さるしは通り〳〵は傳よ云擬量れかくるもん

得べし〳〵こそれは変

(十二)かさのうらん

こめたらんおゆへ鞠と字あらん

ゆくりとしねざらん拍乃ねるらん

こたまの〳〵かねの角(セン)紙乃奥

(十三)法宝乃の

此のうめでハてはもよりも記とも爲るこん

(十四)かたらのうたの

かさのう　みくさこうの宮のとり〳〵史

色ちうこうこうべし

地又　みさ毛ふ人でかうれくに成る〳〵

未来ようこうべし

(十五)八字ち付所

(共八) 何人何の社にそい給へ
てはらはてゆきたる前日のあるときくに得て法華
作らんき事ありかし

(共一) 白二川する白
それとハ宮さま所ト コロ考ほうる人
なぐるや子庵ヒ乃ハ所れ所をみて
くしはる白ハ被ハ宮さまハ自分ハ事ハ考ヒ コロ人とハ
他人ハ白ハ人ありやお庵ヒ山の所さんやとくハ人や
ひとかたとなるれ所さみてくに近所のまこいづきる

上

とトお遠一白二ッ子ゆて西さま初ハ所はまくみこ

(共七) 下ハ白二五ヒ三乃事
ハちくに分ある分ハ子ハ
みくりせらまるく毎朝いさく
これく二五ハ白とそるろ白ハ是とくく志
作らん
分乃とり西ハくてさくさなり
みにせらまれてゆハれ毎朝
みと作らんくくりや

上

㊇ 文字俗乃に傳

文字俗乃にはたまりてゐるものゆうよと
つとてゐるしの次に傳 云五ゐ〻を俗しうて三々
そうてゐるしの七文字成わまるく五三とも三五とも
自ちりてゐるしとゐる

㊈ 指合之法

ちゐあひ乃法といふ連歌式名ゆうれ家くれ
ゆうゐちまぐ答り者て一決おがうゐ上先変れたなて
五乃品貪べ一功と分別と用接也詩歌とろ多ゆべし
うれ皆宗通執義乃心ゆるよゆるゆ殊り誹諧みりうて
ゆうゐく言葉よりうれくいよく其法ワりちかゐくくそ
自徳ハ連歌一座ゆ四乃拍ゐ五ていひ立圃ハ白ゆる八八
ゐて答ゐくしおどうれくけ数いつうてものおりくいひゐて
あとりハ立ぬくし早竟ちゐあひハ其度乃淫福をやゆ

さめたる接とぎ席に坐りて若輩もおく白敷を多くしるを
手柄とおもふ人あり向ひて八さのゝ制すべきの生まれつるま
ゝとも見かさねへられはたゝ稍ゝ死人を白張そ
お何とぞうちみそびく人をとられく白布をのゞせ
八幾り白遠ゝ歳数よりかゝめ白ありとも望かしとなり
やうに所のゝ貴人お人初公などの白おくれ所わひそ
なりとも折ふしのさゝくちぐくでき半世道に肝要
よこ紙にゝへられたる所のある考ゝはひゞり不
かゞのとを分半ゝり歳ぬ

卍 同字別吟

春日ゝ玄日日ゝ紀紫ゝ紀度我紀
紀鮮　勅令ゝ令弥陀弥勒ゝ弥代ゝ代物
関白ゝ冥中風ゝ中中　南無ゝ無永様ゝ
様行ゝ行軒ゝ花形雑波ゝ波狸宇ゝ重
天智天皇ゝ天目主水ゝ水北義ゝ義金ゝ
ゝ孔雀ゝ雀蓋蘭盆ゝ蘭　三日月ゝ日

朝は日も暮れ山は義　今朝は今皆是
年是日も今の字あり　義日は日陰
昨は日は不嫌月はさみだれ　弥
生のたぐひ戸は上戸下戸　天下は下手
芙蓉は泉海月　西王母は毋　百合
花は百ノ字　仏教　兼　玄嫌
准じ吟味をべし　大概是

(四)

日孝五月ハ　三月より五月までは　嵩秋　二月まてハまてに
二月ニギ　神祇　一月まても月ーつ
三月シツクリムレヤツ　密懐　三月より　おりくハせず
釈義　非　祇と同お
日孝五月玄　一月より三月まてはぐく　夏冬　三月より　おりくハせず
三月　無　一月まてハ　引合て　三月ハ　懐斗も　三月ハ　弱くて　懐
三月　無　一月まてハ　三月まて　もそに無字を　嫌さ
三月　水色　ゆ　同お
三月　居所　一月まても　三月まて　家風　ゆ　地ハ　二月　人倫　二月　はぐく
二月　はぐく　基中　ゆ　住居也

三百

旅

三百より多八世せ百よりてもお若猿れ宮一九三三

二百

生類

名ト虫虫ト獣魚ト名るあとのやうにかりうるも

二百

植物

木ト草ト竹おてくらりある也竹ト竹八五百

二百

名所

二百より多八法くもと

三百

扶分

三百ともるあり一百そもなりず

二百

陸物

二百より多法くもを言雨あとくらりうるも

二百

浸耳物

二百より多八法ぐらそ但霧法拍浸耳あ方へ

三百

生類

ケラたる拍も多八世せるるト名る虫ト虫魚ト魚獣ト獣かりあるおも二百より多八浸名木ト木草ト草

三百

植物

二百より多八法名衣宮五百袖ト袖三百去

三百

衣類

二百も法ぐらべ名所ト宮れるも二百夕附名りく三百去

二百

國名

夕附名ト〳〵二百去

風分

夕附名ト紙附分八法ぐ紙

二百

天象

一百そもより二百も法ぐもべ

㊀ 神祇之部

大嘗會 ダイジヤウエ

新嘗耳會 シンジヤウエ 日蔭かづら 日蔭かづら 三ヤ井 宮殿 古天小玄 竹乃ものを 大忌衣

社 荒社 かくらり社 社 右社 トリ井 朱社 高木社 高の社 社 社檀 社 社 高の高井 社 高の

丸本社 タマ 玉垣 玉垣 玉垣

神子（ふしぎ神子いつもの神子まつりひめれば） 神輿 糸（神子糸乳） 榊 九 長竹さ

御幣（大ぬさ） 弗（ふぬさ） 倭宣 夢想（夢に） 御湯立

拍掌（迎拍 忍拍 送り拍） 御闇 御贖物 木綿 伊弉

御火 焚 燎 斎 精（を） 物忌 拍言 文 記譜 氏神（氏参詣）

打火 切火 鉄 守 三寸 洗米 絵馬 矢猪馬 肌

殺生舎（いまると） 岩屋 拔豆 弗おろ 身玉

釜ぐら人 常陸帯 東拔 乙女 伊勢講 初午

小忌衣（をゝの袖 大忌衣） 庚申待 月待 日待 遷宮

（雲） 非神 祇 祠

元方 年 法 男山 伏 保姫 龍田姫 橋姫

弥神 弥文 殺生川 弊 山伏 榊 上巳乃 拔

（酉） 天 教 之 朝

佛像（本像 絵像） 疫像（之像） 本尊 元祖（開山 祖師） 門跡 院家 国師

僧禄 禅師 律師 長老 上人 和尚 西堂 東堂

育産　義立　典主　書記　行堂　僧正　僧都　法印
法眼　法橋　阿闍梨　校　項学　坊主　法師　法印
禅門入道　愚　新発意　比丘　比丘尼　尼　坊主
坊　大坊　六坊　里坊　僧　老僧　若僧　小僧　家僧　出家
宿坊　行坊
沙門　桑門　釈氏　沙弥　寺　律寺　孫寺　奥寺　山寺　古寺
三井寺　知恩寺　落中寺　内寺　里寺　会法寺　茅寺　法見寺
雑堂　法堂　寺家　堂　後堂　茅堂　古堂　尺加堂　護堂　岑堂　谷堂　物堂　阿闍堂
伽藍　塔　五重塔　三重塔　塔下塔　阿塔　尾上塔　宝塔　石塔　九輪　鐘撞　回廊　方丈

経蔵　厨　眠義　星　行人　山伏　阿陀　輪宝　袈裟
珠数　念珠　百八おのれ　帽子　数珠　皿　鈴　掛子　卯　むさぶ
教化　所　修行　道師　唱食　鉢　杓　看経　卯塔
五論　素絹　十徳　法衣　僧侶　金剛杖　杖　嗔陀
亀陀　鏡鉢　鶴は木魚　瑠璃　経帷子　赤衣
談義　法談　論義　座禅　灌頂　施我　布施
功徳　因果　地獄　流転　三界　十界　常灯　消えの火

宿業（シュクゴウ） 常香（ジョウカウ）焼 五山（ゴサン）注問（ホウモン）引（イン）等（タウ） 紀（キ）恙（ヨウ）帳（チヤウ）道（タウ）

陪堂（ホイタウ） 斎（トキ） 此時（ヒジ）香（コウ）六（ロク）欲（ヨク）日（ニチ） 粟湯（チヤタウ） 迴向（エカウ） 拔岸（ヒガン） 命日（メイニチ）

迎雲（ムカヘノクモ） 紫雲（シウン） 来迎（ライカウ） 位牌（イハイ） 六道（ロクタウ） 美梵（ボタイ） 持戒（ジカイ） 破戒（ハカイ） 外道（ケタウ）

鷲山（ワシノ）嶺（ミネ）の山 室戸（ムロノト） 閼伽（アカ） 三乃（ミツ）車火宅（クルマクワタク） 禁足（キンソク） 餓鬼（ガキ）

諸仏（シヨブツノ）名（ナ） 菩薩（ボサツノ）名 祖師（ソシノ）名 華厳（ケゴン） 経（キヤウ） 文中 文行 文書 文体

賓双亟（ビンヅル） 三具足（ミツグソク） 華厳（ケゴン） 懺（ザン） 天蓋（テンカイ） 九品（クホン）ノ蓮（ウテナ）

（四五） 非尺教（ヒシヤクケウ）網（モウ）

絡（カラ） 高野山（タカノヤマ） 日枝山（ヒエサン） 光宅（アメゴ） 非（ヒ）尺教之

（四六） 慈之詞

慈（ジ） 慈の心 慈の涙 慈悲心 慈悲 慈の衣 あざ慈 慈悲心 慈の

慈々しき 慈々しき 慈悲 慈悲 慈悲 下慈 慈と 人 車荷

思（オモ） 恋 恋 恋川 恋 恋 恋

聟取　わかさ　聟ノ縁　ムコ
わかてとりうり　聟入
婚入　婚礼　よめ　聟　聟ノ縁　新枕
ワカゴ
若後家　傾城　ケイセイ　姫女　揚屋　廓
白ひやうし　一ぬきし　ふりれの天　ちんちん
唱門　ちやくまち　しちりう　長崎　出島　橋本　ちりう　糸町　わかき　本辻
ちやうの　付さうとい付たを　ちやうの　ちやうの　ちやうの　ちやうの
やりて　ちやうのびわ　ちやうさ
カブ
ちやうの　ちやうの　ちやうの　ちやうの　ちやうの　ちやうの　ちやうの

ほうさつ　ふくさつ　形見　かたみの扇　うちみのうち　かたみの帯　出家為
坊主為　ひどう為　歌比丘尼　いへなばもの　肌ぬぎ　嫌　肝気
口吸　二こころ　ふたこころ　つうてん　縁　後ろ　うきえうし　えんむすび　結白髪
父無子　弱り非　化粧　白ひ袋　白の袋　瓜紅　懸想文
水鉢　鬼額　子をあつと　子持臭　化くべ　死ろん
かいまつん　宮乃下　まろびなひ　諸言　うと中
心中　やもめ　後ろびぬ　ひとくみ

部屋ごと　下紐　ぬけ　ありのうらき　男ごころ
抱きる　ひとく　かきる　鹿目流ひ　ふひざ
ぬしいつくり　ほき　ふるき　親面人　うと　ふるく
ぬるくく乃中　仏　面新よみ　ぬるひ　妖姑　艶
抱乃宮　後めて　辺　まつり　近ろう　化　古ろ
ふるく　穿　ふるく　親達　乃中
ふれ方中　揚き　蛇豆　頭巾　武義　ふかく　ふく　みち
ろう　ふるい　ごの　ふいつ　まつ　ふ　ふるあり　ふるあり

雲　非恋綱

後家 賤女 市女 下女 樵女

（六）無常之詞 哀傷

塚 野 人焼場 骨 煙

死出乃山 死者の山 三途川 死人 亡者

棺 酒 遠 灰 墓 墓参り 塚

中陰 四十九日 魂迎び 人魂 力落 精進

服切 自害 白骨 冥途 黄泉 喪

髑髏 幽霊 幽霊 亡魂 葬世

（七）述懐之詞 并 懐旧

生前 若人 若盛 若者 生年 流人

老 老の命 老の松 老盛 白髪

後家 御家 命 世 親子不幸世

姥 父 隠 隠者 遺世 若衰 若深

眉霜 後位 捨身 雲霧 家と財 財食

古家（フルイヘ） 其日暮（ソノヒクラシ） 摺切（スリキリ） 不仕合（フシアハセ） 繼子（ママコ） 寡（ヤモメ） 乞食（コツジキ）

世捨人（ヨステビト） 後世（ゴセイ） 備蓄（ビチク） 備荒（ビクワウ） 年忌（ネンキ） 月忌（ゲツキ） 遠忌（ヲンキ）

（甲）非道懷詞

盲目（モウモク） 炭賣翁（スミウリノヲキナ） 賤男（シヅカヲ） 賤婦（シヅ） 愚耐（ヒトウ） 瘡瘢（ザトウ）

鼓賀（ゴゼ） 病（ヤミ） 蚘（ワヅラヒ） 草乃庵（イホリ） 柴の戸（シバト）

（甲）人倫之詞

雲乃上人（ウンノウヘビト） 殿上人（テンジヤウビト） 武士（ブシ） 士の字はさむらひと人倫よりの侍兵部等 奏者 使者

医師（イシ） 師の付いつまきと人倫 僧師（ソウシ） 繪師（エシ） 彫師（ホリシ） 儒者（ジユシヤ） 者は人倫

婦女者（フヂヨシヤ） 儒法師（ソウ） 山伏（ヤマブシ） 比丘尼（ビクニ） 尼（ニ） 無頼人（ブライニン） 商人（アキンド） 職人（シヨクニン）

義士（ギシ） 義者（ギシヤ） 俠者（キヤウシヤ） 俠士（キヤウシ） 俠女（キヤウヂヨ） 俠乞（キヤウコツ） 俠乞者（キヤウコツシヤ）

馬子（マゴ） 番太（バンタ） 猟人（カリウド） 漁師（ギヨシ） 舟人（フナビト） 樵女（ヲンナ） 自我（ワレ） 獨（トリ）

月（ツキ） 家の子（ヤノコ） 月の女（ツキノヲンナ） 花の子（ハナノコ） 亭主（テイシユ） 兄姉（アニアネ） 妹（イモト） 海士（アマ） 民（タミ）

嬢（ヤモメ） 寡（セキモリ） 守（モリ） 狂人（キヤウニン） 御乳（ヲチち） 乳母（ヒト） 乳（ヒト） 人（ヒト） 乳（ヒト） 樵（キコリ） 夫（ヲトコ） 廣（タカシヤウ） 匠（シヤウ）

瞽女（ゴゼ） 盜賊（タウゾク） 夜盜（ヨタウ） 山盜（カンタウ） 強盜（ガウタウ） 海賊（カイゾク） 盜人（ヒト） 孫（ソンシ） 子（ヒト） 神（カミ） 君（キミ）

忌憚なく貴下長者嫂妻親子伯父伯母
祖父祖母姑舅男娘姪孫後乳兒孩弟伯母
師匠結髪文仕下野良傾城伯父伯母者
屠児男女友達四義師匠唱食同宿
新参乞丐拾字糸長算家主酒醉蒲張
徘徊孤高孤の閑栖孔子孔丘孟子孟軻を始め人倫真実の人倫をのべ家を
出ることなかれ人倫ならざるものをとがめ

四十二 郷人倫絢

東宮 皇女門跡 公家 帝宮 親王 女院 本院
仙洞 新院 君子 大君 人間 人道 心術 仁人 長者
門一家 六親 孝行 雑式 給仕 典業 下々 眷屬
祖師 橋梁 我君 本道 本科 二人 老若 倍大勝
勝揚 人形 聾 唖 盲目 代衆 月と友 花と友 月と
ゆゆしくむとて酒よ酔ぬ やいつまで徒南蛮ものも仮名乃字
いろはを人倫よりいろはにて

同代 同付うもゑ 義弓居 かくさ 敵 ちつとち
一族 雑兵 元文 元生 所為 和尚 きと山 拾得 私
墓 且那 地沢 坊夜 氏夜 如来 美薩 祖
師 乃名 眺人 傷也 百性 順礼 大工

四三 居所之詞

家 家居 宅 門 戸 背戸 窓 蔀 格子 障子
小家 敷 此敷 及此 及代内 敷代内 高及 敷及 約るのかそとの 樓 樓上 宿 宿淀 茅のやと

ようきつかれ屋 宿れ さ ひろ〜れやと 物まてるやや 屋 おもまや 芦屋 まろや かりや
名や ゆろ〜や
城 天守 亭 玄関 屋形 路地 棟 軒 二階 棚 床
庵 里 村 天井 座間 身世 部屋 廊下 墓所 度盛
蛍 居間 湯殿 納戸 屋根 欄干 籠地 垣 隠 藏 掾
火燵 坪内 外面 簾 井筒 麦 畳 暖簾 番所
麦居 路地 囲 爐 囲炉 裏 礎 貴子

四四

寺室戸 蹴出堂 皇居 内裏 伽藍 あま宮
法眼 庫 恵 柱 多古 寺堂 名 籠

四五 秋分之部

抑 天 月 ちり 明星 七夕 萩 爰 奥 象 ふくる
稲妻 宵やみ 曙 暁 ちとせ雲 ながつき 九月 三ケ
月乃入 明方 あり明 月 明 晴 東雲 霧 梓 双綿
伊吉 市 炬 灯 篝 桃燈 行燈 燭 蠟燭 漢火

紀火 燈火 房火 床 らくらく 白火 ちぐら
せ 夏 いびき 狐 無射 蚊 別の名
籠 蒼蠅 ゆうぎり 書そく 紙 東雲
蝙蝠 蛍 揺 わびし 火 線 送り火 御後
冲 寒 外 ねぶと 情 寝 起 食 籠 時 帝 燭
手燭 舞 ひいぐと 抱 蚊 蒲 多ち 夜 初 務
川 魂 狩 人 鬼 蒲 園 結灯 涙 文 清 土 燈火 燎

ねむる 天の川星を喝 傾名 衣く 網代床 幽
天 鹿女 化物 夜発 過君

(四十六) 北夜分の部

清灯 徒嘉 交 弥系 夕月 曉 夕 夜 燈火
芦火 泊 夜を待月 夕月 夜 御火 燈 常灯 燈
床 山伏 一夜酒 褥 電明 月 星明 月 明 月 明
久入 泊 三ヶ月出 朝明 月 代月 待 度

孫の床 泊狩 入桐 夏初 夏現

(四十七) 山類之部

山岳 嶽 岡 洞 坦 坂 谷 池 尾 高根 森 麓 滝
榊 松木 炭竈 山路 山畑 浮島 小堤 小島 松島
山梨 山 山鳥 山びこ 山賀
葛城 久米路の月 出 九折 畑 月 世 月 月の滝

(四十八) 北山部河

鷲峯　雪山　高国　淡路島　小林乃文　高
富士河　龍田川　木曽路　玲瓏川　浜瓏川　小野
青野　くらぶ　岩橋　松人　炭焼　鮎漁川　瓜木　氷
室　下駄　蕨　猿　鹿　鹿狩　鹿仙人　初鹿　三島　宇
治川　鵜　家屋

異　水鳥之部　夏の名　水鳥の名
海浦　浜　浦　江　漁　渚　沖　岸　沼　江川　水涯　池

瀬　川　泉　井　漁　津　磯　浦　波　海　氷　流　舟　橋
代　網　網代　見　清水　閼伽　水屋　室　水柱　温泉　塩　焼
浮木　水鳥　筏　筏　下　樋　浮　桶　蜻蛉　壺　海士　猟
紙布　紙　亀　水鶏　寺　文　千鳥　都鳥　鳴　藻
任虫　奥　鱸　乃　松　接　接　松　文　沖　接　多
漂　下　漂　漂　漂　漂　水　屑　蜘蛛　藻　焼　ち
蓮　芦　淡　萩　水　蔦　あやめ　菖蒲　蓼　薄

菱流木　氷魚田井　月出堀　小鴨　伏漬　鯉井

黒川遠岳　水尾漁火　灣　住吉社　三井寺　清見寺

志賀社　大津　明石　粟津　須广　松浦　三浦　岩橋

粟津　粟津　羅波津　浦々　愛八郎　漢木綿

（再）　帆掛船

羅波寺　志賀　住吉　大井　粟津　粟津の原　琴引橋　淀川

淀川　琴引　淀乃美　向河　実　月出れ

野代　布引　台　宝代　鴨　網乃うら　田代　菅

苔代　谷屋　横川　小東　掛　嘉ちうら　鴨　鴨

苔　さち　後　龍　臺庸　炬　乃ち　早苗　天水

岩　蓮　蓮関　貝　貝　蓮代　契　淀　干魚　干

貝　鮑乃　搗　松　松乃　搗　乾海苔

紙乃　網　せよう　水　魚　いるまで　左衣　越

ちち　或　ハ　ぐさ　ふ　ハ　書　真　塚　多　ハ　仕　事　ち

高座に宗匠に随ひて用意乃人々めぐり珠人倫より玉
て祝うんくれうの名ほうく思て清宮がく初式のく多
かさ乃やうる書をなきどこ乃ものてくるハそれ稿より随
て高遊めくくさんたがべくを帝元者うひ到ぬ
高新年と高豊歳れそこりこもやといけくの
かさのせ作るまり志りるを

四季之詞

春

青陽 青帝 陽春 暮天 東君 訓光

正月

上陽 孟春 夏正 ひつき 陽月 かさとみそ月 左卯月
初陽 大簇 陬月 祝月 初元月 その元月 元元月
正月に記録ゆきもつ〻ゆ〻月ともいつりそれと暑〻
てむ月ともいつり元元乃後十五日雨水乃節ゆ初春ゆ許柄
寅乃かさまちせり其故ゆ元元乃月ともゆ寅ハ夏乃世の
正月ゆて夏正ともいつり

元日 上日 上元 聖節 歳旦 改旦 ゆ元 ゆ元 ゆ元 ゆ元
新年ゆ 新年ゆ 乃元 乃元 乃元 乃元 乃元 乃元 乃元
新年ゆ ゆ元ゆ ゆ元ゆ ゆ元ゆ ゆ元ゆ ゆ元ゆ ゆ元ゆ
ゆ元

四方拜　星とうあり　元正寅乃時とうとうく房星とうく
付り佛　天地四方乃己陵とあり　ゆゑに義こそ佛ゆゑや星とうあり
まり星や命星とうり七過ぎくこそあへるこそうや今在あり乃世俗
りりこそうこそきり　歯固　ゆがりえ　歯朱　後餅大根いりよ　ちやこ
らの其ら　人い歯とて命とうる故こそ　歯朱　くらの内　まま
りひとりむこそめいこそひこそもこそく　椒柏酒　椒酒
椒鰯　元日に用るよりあり　御薬と供て
れ　厚こ乃り　こ拝乃始あり
こそうこ屠蘇　天皇こそうこそきこそもこそまこそ茅の　元日
柏散　度摩散　こて小豆と撰のかりめて　知祥　姜賀
節会　法司奏　氷様　股赤　胡賀　姜陽付名
七曜御暦　四柱　元日なれて禄　天子と
かの陣　知祥　知祥　姜賀も時りる事とく
りやりこそ事　姜賀乃時りる事とく

こそ敬と計　院祥礼　一日院参れこそ乃御所にて
敬こそ　祇園ぎりかきり　れりこそ事　元旦寅の　上
徳乃神　事　切行之　年
元方棚　毘沙門乃くらく　縄
門乃神　棚　門松　こて松かさり
かざりかき　かさりこそ　かさりこそ　竹
いせえびかざり　柏とさぢ　元日かくれ　大かさり
まきこそて酒よへて　蚕　もとこそ　か事　綱
のむこそ唐の事　大蒜　名　餅　具足乃餅
かりか　元日　雑煮　うんとこそふりもれこそ

のこされぬこんぶ　ふとだい　蓬莱かざり　みかさね　さうな
あわびのこかつをもの　はのこ　のこ
開てうりかけ　ふとこ　ふとこ　ふとこ　ふとこ　かや　ゆらり
うりかき　あわび　あわび　ぶどう　柚かん　柹　ところ　摘かさる
秋のこのこもかさる　俵子　生ゆ　をうり　押鮎　年とこと
とりこと　元日
蓬ゑび　ゆく　ゆく　ゆく

[illegible]

落灰と名付 立春の日あしの葉の灰を袋にのこしおくなり

繭玉といふ 繭玉も唐の繭をかたどる

初子の日 子の日の松をいとぐくいろいろとこしらへ

みのの月のあるとき 春の松 小松ひき

[illegible]

蒿橋 初子の日

若菜 初子の日

初寅 寅

春卯 卯の月上旬の日をもつて本尊とし九尺三寸つゝ[illegible]

二宮大食 二日 二月[illegible]

朝親行幸 二日 天子[illegible]

隔日宮 二日

三ケ月 三月 [illegible]

千橋万病膏

松の内 正月

ふるぐ 改まる

潮菓 清菓

屠蘇 元日

新年慶賀 元日

叙位

白馬節會七日あとつぎ御弓奏

七日正月 霊辰七日

人日七日 人と帳の鼎立て七日人と多云門戸に貼

菜摘河神事七日 長尾富実七日 玄言院御修法八月宿直人

御斎会八日 女叙位八日 女王禄を給ふ八日

大元師法八日 常陸常乃神事十日 鹿島乃明神乃

祭の日其前ちう人のまくらなる其れ文号と布ぬ

常つ五ありめて神おつ置そ中にくくうりうつ常と

くて其常乃あしれ 夷祭十日 帳内十日 縣召乃

祭日 十一日くう十三日と三十日と外国人とて仕度とゆづ臣

除目 伝ふ乃文仕をくくうる

御斎会内論義十四日 冥鳴訣十四日乃くれくれ

ゆるみとやとうや 載 漂鬼 三迹打ひれ美長爆竹みそうと 右ひくる

上元日十五日 御粥十五日 花燈夕十五日 唐土火

とおりく

舎利と 神ちくう かゆ法 木日 かゆ法元ちへさえ ちくくそ

ちくう 女乃腰そ折 云乾

若く男おと長とくう 小豆粥 日月 調粥 栗乃

御粥日月 内田 師みくう乃神事十六日 請号十八日 天子号場

殿 ちそ号とやう 御覧まる 厄神まつり十九日 蓮氏乃束 これ八帳乃厄祓へ

まつてゝそうん初茶
はれもと来てゆる迄　青田清稜　十九日　具足行後
五月　二十日　二十日正月　九日ぐんこ　煎餅と粽　同日
正月東乃信西月　九月の初の茶うすて茶餅と　侍　都波鴻
行のきそ　多乃これとりそ　九月仁寄敷うすて　れてゐる　の人　ひとを　ゆう
祭　下旬日　肉宴　九月仁寄敷　結と他て　寄うて　番セうう　茅とゆや
外記乃紙　吉日と　柳忌　九五日　福寄草　元日茶
節振葉　東風　水ゆるく　水ゆるく　ゆうくはい
凍とく　氷ひまの　氷　魚水ぬるむ　五月氏根
雪ゆるく　多乃のる雨　おらの氏の水　雪汁　張香
高乃茶　高乃茶　雪汁　高乃茶

雨水乃節　貝月　物　魚と祭　水鳥轉
未乃月　下のえ　堅立　鶯菜　水入菜
ゆう茶　秋草　初春ひとく　野蒜　茂葛
蜘蛛ひたうとめ　ふとう乃　根白草　菊子ひたう
蛙　野大根　梅　花梅　白梅　紅梅　花梅
香菊　傳名梅　行幸梅　寒梅　信濃梅　専暦
ねな文本　梅蜜　柳　川柳
風見茶　玉柳　米柳　ふとう柳　門の柳　岩柳
川ふい茶　柳ふく　同ふく柳　こぶ柳　ふと柳　柳腰
鶯　ゆうへとうす　紅ゆむ　鶯乃琴　黄鶯　よこ笛　百千鳥　果鳥
金長鳥　黄鶯

木地畑縁　依保姫　三月ニ乃ぞこの　同くらう

暖日　れめるむ　清還　めてう会　飯宮　まろ宮

万ろろ祭　春蔦羽　梅づえうう　青柳うう

子日　衣　着衣　袖　柳のきえ　松乃花　大井うう　ゆみのり

十かう　霞　三月ゆうう　八重霞　乃衣　松　柳　柚

一うう丸　霞の春　白魚　丁稚　青苔

乃ゆうう　おごりう　ひゝうれ　能登　山椒　野老

芝乃文　霞乃河　青麻　氏

二月　仲春　夾蕾　小草生月　陽中

中和節　二月朔日　驚蟄節　二月朔日　初午　初午　初午

東福寺せんぐう　初午　水間寺　初午　いづこの　本妙寺

糸　歓生子　二月　上丁日孔子　朔日　乃菓子　春日祭　上申日　園　井　韓神

釋奠　二月　上丁日孔子　春日祭　上申日　園　井　韓神

祭　上丑日　大原野祭　上卯日　祈年祭　四日大祓　文次下三千百卅二

庄乃祭　祇園御八講　八日　列見　十一日

乙卯祭　乙卯祭　乙卯祭　乙卯祭　乙卯祭

吉野乃餅　朔日

比良乃八講を始　二月堂行ひ
薪の能
遺教経　九日より　佛乃別　二月九日より盤像涅槃　積塔　十六日
清涼桂炬　十五日　奥福寺　二月　朧月夜　弘月　弘日
玄多九帝　九中　弘日　弘日　弘日　弘日　弘日
治部耳酒　弘日　弘日　弘日　弘日　弘日
寺家勝會　十九日ヨリ　清涼殿　九日　天王寺之聖
霊会　十二日　北野　御忌　十五日　道明寺祭　十六日
季御讀経　二日　灸　同出替　波岸　時正　時宗

躍念佛　皮岸ヨ　踏哥乃後宴　これハ三日ハ乃内裏
ひくるま　蛇穴と出る　蛇化して鶯となる
玄九鶯　白尾乃鶯　鳥巣巣　鳥巣巣
色乃鶯　雛子　きじ　きくすゝ色　鶯乃鶯
鶯乃鶯　雛子　きじ　きくすゝ色　鶯乃鶯
鶯乃鶯　雛子　きじ　きくすゝ色　鶯乃鶯
鶯乃鶯　雛子　きじ　きくすゝ色　鶯乃鶯
雲雀　鶯　こ鳥色　雀子
蝶　胡蝶　蜂巣　蛇　蜘蛛

地虫出る　源穴とゐる　陽炎　猫ちくるる　猫乃
いとゆふ　糸のそこふ　糸　名ばかる　初鮒　ふるなす　蝶
蜂　寄居虫　鮒　鯽　鯽乃子取　田螺
初雷　虫あ―雷　雷丈初壱　初稲びかり　八重丈梅　紙中梅
梅花　庭梅　芙蓉　花を待　初も　初桜　皮岸
桜　くまぐすうぐ桜　いちごちくら　糸桜　玉桜　白玉桜　いと桜　変入桜　ちり桜　二階桜　ぼたん桜
桜ハ雑くもしんまと　ちくくもりちくくもしまと　継木　苗代黄　焼野　芝焼　焼
畑と　やまぶき乃落　ちくぶ落　荻焼原

畑うり　ちさ　田とすく　田と　苗代　水ぬる　水ぬる
蒜のひる　ちうり　大冬　水葱　橘　拍子時　麻蒔
藍ちく　獨活　芹　天竺葵　ちの花　ちの苛
枝葉　防風　菖蒲根堀　山葵　虎杖　茗荷
ちくぐ紀　茗乃ちの葉　かぼちく茗　茗荷
ちの葉　茗荷の葉　ちの葉　蕨　子蕨　かちく蕨　蘭
ひ芦　芦　蕨　茗　葉乃花　大根　芝　蒜　蒜花
菅　川ちーや　海雲　氏巾戸島　いたれ落ち　麻　角落

三月

弥生　玄月　陰月　春月　春陰
季春　中春　活月　嵩月　初月　花月

巳乃日　上巳　上ノ巳　昔水辺にて禊をなす人々　今は三月三日を用ひ巳ノ日を用ひず

次立ち　そい　源氏次ぎ　へ　去迂　たき

盃とあり　めぐり　飛盃　のりの

曲水宴　三ノ日　法曲水　曲水宴　流れ盃

桃花節　三日　桃乃酒　菱餅　蓬餅　綾合　ひしもち　柳かげ

油花　ホウ　三月

三日　桃や　鳳凰　菱　ひしもち　柳　ひしもち　水　水　ひしもち　水　ひしもち　水　ひしもち

勸學會 十五日 浅草観音 大会 同日 小石川 大会 盛り場 浅草

草祭 十八日 御身拭 十九日 御参詣 日 稲荷の御

出 中午日 順乃峯入 大峯入 回峯化して

鶯の谷 穀雨乃節 三月 薄生初ル 暖気

永き日 遅き日 夜近 夜と侍 暮れ生 ゆく春

まれ残り 春れ残り 三月尽 春と惜

まるのみなく 春とて まるあるを

麺と塞 ゆるり長く 郭公鳴 暮れ巣

鷹の巣 或八雑 暮れ巣 雲に入鳥 多の如く

麦鶉 あひふ ひるあり 上藁 主蔓 鶯 鶯具 鶯魚 鶯網

鶯子 若和布 柳 葉魚 鮎 小鮎 鮎

桃林 桃の木 桜 花さく 京桜 庭桜 八重桜 遅桜

ひらく 樹 桜人 桜子 布川桜 桜の雲 花の雲 花の雲 花の雲 花の雲

花の波　花の玲　花島　花乃元　花の白い　花の海　花の畠　花の岩　花の泉　花の宮　花冥　花の心　花の沼　花乃ケ丘　花の丘　花の谷　花の丘　花の谷　花の谷　花の谷

茂くぶ 茂の丸
母子草 ゐこ草
菫 つくしこれ
芽もぬく 芽子
新茶 古茶 かき茶 茶つゝ
狗杞 枸杞
東菊 かくらい菊 秋菊 採茶 九幅茶 七童茶
馬蘭 又 友
えびね 金風花
華帽 化粉草 下子草
眉化乃死 一説ニ死花 人参花
仙臺萩 蜀植 晢
虎杖 三葉芹
芝竹 三月菜 三月
大根 令錢草
蕗乃茎 蕗乃死ぜんまい
芸雨 三月ニ降る
弥生山ゐ
表白裏赤茶ヤマフキ ヨモ
桃花の家
山吹衣

表白ちゝ
芝ゐり
ゐゝ山吹
表茶
ゐゝ
ゐゝ
表白裏茶
ゐゝ衣

上

五十八

芝 朱明 昊天

四月 卯月 卯花月 得多月の月 花月 正陽月 首夏 孟夏 中呂 初夏 余月

更衣 一日 白重 更衣の日乃長ゐり

三日 菖蒲 給 ゐゝぬきゐり

三日 菖蒲湯 一日 扇乃作 菖蒲祭 一日

夏祭 稲荷祭 中卯日 大神祭 三輪 卯日

山科祭 上巳日 平野祭 上申日 松尾祭 同日 今ハ酉ノ日 當麻

祭 上申日 松本祭 同日 下鴨 南宗祭 上酉日 梅宮祭 同日

上

五十九

水屋祭 三日四日五月上ロ 南都麦月 廣瀬 龍田祭 四月 大和 山崎 日ノ使
三月戌ハヤセ 三月八瀬祭 辰日キ 樫階麦 三月列ル時成 堅乃短冊を成ス二有
ちうもて麦ると大臣クハブツ 灌佛 八日 仏生会 釈尊誕生 仏ハ成ル陽 五香水ヲ注ギ仏ニ灌ル
麦ると有り
鷹ヘ鳥屋 八日 戒壇堂開帳 八日 山門ニ有 山崎祭 月日
多賀祭 上巳 近江 近江八幡祭 中 平安天神祭 午日
伊勢神宮祭 十四日 麻絲乃連こと人麻とうとてヒヨレ 賀知良と識て祈ゆこさてきはる同 吉祭
中申日カモ 山王祭 加茂乃祭 中酉 祈あひろ〜 まろうろ〜
中山祭 月日ヨシタ 吉田祭 中子日ウ一 男クスハク 冥白ハ加茂 猶中申
三社祭 卒川祭 千寸子 十六日三井ちれ 見子毋神へ手まえ 清水祭 中ノ 見子毋神へ手まえ
向日神祭 中 久世祭 中 清水地主祭 九月 富士 月
清事 十四日中和姫 去塔會 天王まる 日光祭 十七日 菅宮 日
祭 中牛 光供 九一日高野大師乃 神祭 長谷 祿ろう
三ツ一ヘ 松茸宮 上ろハ 梅天 清の天 小満乃節 四月
煮酒 麦秋 麦秋凡 麦々麦 芋植ろ
蜀のり干さ 苔乃花 芍花 杜丹 ふくしま
九日麦 花の王 伏せ麦 ふくしま 芍薬 ふくしま 杜ろう

葵草 二ん草 葵草草 かるかや ひうちわひこめ たちわひこめ
姫ひ 玉葵草 玉葵草 芭蕉 一八。きやう 蓋蔵
茨子草 ちやく むざくろ 鴨足草 岩菱
躍花 茶了草 卯花 花 花りと卯木 ちる卯木 若楓 若
葉乃花 ワくれん 若葉 若葉 わくら葉 ちけら木 若
反末立 彩樹 末の下やく 常盤乃落葉 桐の花
花柚 長人草 桂 桂花 きこくけ花
ち鶴花 きく海 ちくてらけ 山菅花

厚朴乃花 藪椿 すはら椿乃花 楊かん
実 竹乃子 たりん子 藤乃子 岩刹木 蕗
黄多 刺根草 薯蕷乃根 部 蓋なし芋のとむ すひてもこと
ひ郷ひ ひしひ草とき ひとり 子規 子如昂 ゆりと
蔦原 高 きうり 蚊 食 蝙蝠 雨蛙
蚯蚓 出 蚯蚓 蚯蚓 取蚯 柱振 虫 老蟻
蚊 蚊帳 やり乃 塩辛賊 生姿 元龍子
解鰓 鮎 ひすめ すめ 鹿乃袋角

[illegible]

五月

[illegible]

月[illegible]月 仲夏 [illegible]

皐月 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

小角弓よりはじめて射
あてゝ
をとるかとりはきれば
あとよりとりて
たくらひ
集乃歩
鵜飼
鱗渡
鮎射
尤近乃
赤靈符 五日
百草と
菊湯とりふる 五日
もよ乗れ巻と
百度にのみつゝ
集ぶりもの
ぬえと射て五月
五日川よりて
水馬
車
つゝひ
つゝひい六日
つゝひ四ハ六月
三日ハ
三日ハ
桃符 五日

宿の庭とゝ
下地
神水 巳午の時の西
竹よりもとる
五日ら
きりはる
櫻
五日
櫻乃
賀歳乃
藤乃
祇祭 五月
今宮祭 十五日
室ぬ
有乃月 九五日
寂勝講
神祭 十三日
西祇祭 廿三日
賑給
芭蕉乃節 五月
住吉の御田植 廿日
大原志 廿日
山田清田扇
雨乃

徽雨 黄梅天 鹿の間雨 六八日 祇園の清水 洗米 日

ゆりの花 五月の中 富士垢離 蟬の初聲

ゆり 五月十日ゆり

常盤とへ 夫流水 藻の花 和布刈 百合 姫ゆり 常陽

藻の花 車百合 茨の花 ちるとりの花

ゆり

菓 四ひらの花 赤橘花 忘れ草の花 下野

ちるる 石菖 花菖蒲 雪銀花 ゆみそこ

蕙 花蘭 花菖蒲 夏菓 朝顔草

震盆子 木いちご 天蓼 蚊帳草

かくごみの花 ちいさいちご 表假 きりむき 子和草

藜 苋 苋 早瓜 あさがり 白瓜 苅葫

南天の花 青梅 生胡桃 花柘

椒 梯の花 麦陽 柳の花 橘

樗 せんだんの花 くちなし花 表桐 うくひめ

杏子 枇杷 表山椒 蔓竹 子乙女

田竹 子茴香 青田 田芋の花

栗まく　稈　秬　胡麻　十月

そらまめひく　十月

蛾を火　螢火　蛾　蜻蛉　蜻蛉　蜻蛉生　蜻蛉

水馬　蜻蛉　蛾のまゆ　白けさ　水馬の巣　黒鴨かもの子

水鶏　ちや鶏　毛とり　鶏の巣　鶏の巣　鶏の巣

鳥　佐島毛とり　鶏川　魚巣　鶏の巣

鮫　鹿子　鮫　鮫　鮫　鮫

鮫の巣　干鰒　干鰒　蓼　王侍魚　小鮫

津走　水鱧　鱧　蛇まねく　さそき

やこ　蛍　蛍　蛍　蛍　蛍

六月　六月　朔日　朔日　陽氷　氷室　氷室

氷室　一日　ひむろあけ　氷室の後　氷室の後　氷室の後

供ち　朔日　元月しの日清の大ち　一歩潮　一歩潮

六月會　四日　市鮫の市ド　十日神紙宮　十日神紙宮

米と　十日　十二月　十二月　十二月

月次の　月次の　月次の　月次の　月次の

神今食　日解舟の御粥　十二日

祇園會 七日 出日祈 ふえうちかて 月をと 笠かて二
ひんとうて きくまゆみと 放トかて ゆみと
郭巨山 孟宗山 琴弾山 ちまき刈やま かまきりと ちまき
山ぶし山 白糸天 芦刈山 花盛人山 天神山 山ぶし山
多田祇園の事社より世系系 系極の所縁所まて神雲を出し
是を山 鯉山 八まん山 ふり人丸山
すくろ山 鶴山 ちまさ山 系かて
ちまさ 同 十四日 橋弁慶山 是
後の行者 すくろ
素盞嗚系 十四日 赤まろうと
十五日 提灯とのぼる
いしくし風系 十五日 竹生島系 十四日 つつ戸山
王系 十四日 桐生嶽法 十七日 祇園際の系 十八日
赤之食 十六日 赤之殘 伊勢系礼 十六日出家 ハカ
もうて 指

ちまさ 十六日 志渡寺系 十六日 度会の源之 十九日
富士詣 一日より 元日まて 御多洗詣 元日より 元日まて
鶴ろう 竹切 廿七日 芝宮 日詣 元日 橋之系 元日
天満天神の御祓 廿九日 大坂住吉系 廿二日
賀茂水之日の祓 廿日 住吉の御祓 日上
庚申まいり 日 節折 元日 十二月と 夏ちと
大祓 廿日 山祓川 くくり茅 みぐしの祓 あらふこのとと
菅貫 夏ちの 後ミロ 山祓ちと 人形とはらて 身代ちと
代と 祓て 川流ちと 年 みこしと ちと

茅巻論 毛年記大王薩成ヨ

夏のくらし

川社 反後小川名ヨ 棚を名へく

小蠅の神 蠅の

玉神 玉ヒレツメ

玉ヒレツメ 玉ヒレツメ

道饗祭 日月四角四界ヲ祭ルト初氏の人郡四方の

みよ 祭ルとよ住あとそ人

施薬 東山西山ヨリ薬法師くるよ

蓮 蓮の葉こ成そ

雷鳴陳 雷の鳴こ成そ

小暑節 六月節 温風

暑氣つくしと 暑氣

大暑節 六月の中 薄暑

腐草蛍 あつき日 夕立

天駟節 六月 三伏 第四庚 出ニテ出拂

立秋 扇車 扇引

玄圃 行水 行水人 涼 月涼 納涼 涼ら

唐崎 簟 抱籠 脚る 極暑

簟 簟 簟 簟 簟 簟 簟

日傘 いづと泉水 泉殿 涼殿

涼 涼 涼 涼 涼 涼 涼

新井 六月ヨ井ヒ 暑氣

水殿 麻地酒

醤油たくる 蘭たくる 冷たくる

葛水　干飯　石明　者黄淦　ちゆうつけ　鰹を
ほく　夜切菓　梅むき　黄毒　梅漬　ゆ桃　楊梅
李　林檎　百日紅　柿子　やまくるみ　ぐるみ　ぐるみ　ぐるみ
川ぐるみ　ぐるみ　石竹　蓮　白蓮　ぐるみ　ぐるみ　澤
浮　この骨　蓮花　蓮八枝　蘭の穂
佛桑　ちくさみ　ちくさ　荒布　作乃皮　取
蘭　日花　独活　鉄線　緑花　眼皮　かつひ　凌霄花
緑菓　庚尾の花　風蘭　瑞菓　銀

貫珠　麒麟草　ずかん　一説ちくさ　青苧　ほうつき
ゆ苧麻　赤草　水　麻　こくさ　ぐさ
苧麻の苧ノ麻とるいろ二番ノ苧　ぐさ門の糸
ちくさ　ちくさ　ちくさ　ぐさ　ぐさ
乃花　香薷散　ちくさ　ぐさ　ぐさ　ぐさ
ぐさ　ぐさ　ぐさ　蒜乃根　瓜　瓜
胡瓜　姫瓜　糸瓜　夕顔　ひさごの花　ちくさ
豆　乃花　瓢草　小蘭草　ねぶり　雲薩
とうつく　鶴頂鷹　蟬　せみ　せみのぬけがら
夏虫　日光　とうもろこし　とうもろこし　せみのこと　せみのこと
蠅。蛇

蚋 毛虫 金亀子 蠑螈 ほたる 蟬 蜩 蟋蟀 海月 蚊 沖鱠 反

づ 霍乱 掛香 住吉躍 蓮の葉 植ハ 四月

楮 紙すき 茅

○秋 秋乃 蓬 白藏 昊天 金商 明景 爽籟

七月

ふみつき 文月 涼月 孟秋 初秋 孟月 夷則 相月

七夕 七夕祭 七月七日 故ようひつけ月 文月 ふみつき

夷則 八月 七月 紫秋 菅月 けさの秋 聲秋

立秋 秋のくれ 初涼 新涼 餞暑 朔日 秋九

葉とんぐく りろうに八丘焼乃日又微の葉をとりを求く

とんぐく ひさかたの 一葉 一葉ハ桐の葉 一葉衣 柳 荻 柳 桐 秋

ひさかたの 一葉 一葉ハ桐の葉 一葉衣 柳 荻 柳 桐 秋

七夕 七夕 七月 七夕祭 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

六日 法隆寺のすく 六日 法隆寺のすく 七日 星祭 星合 星迎 星送 星の会 星の宴 星の向 星の契 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

星の会 星の宴 星の向 星の契 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

二つ星 牽牛 宮商 ひこぼし 星まつり 星の川 銀河 銀漢 銀波 星河 星の会 星の宴 星の向 星の契

銀河 銀波 銀漢 星河 星の会 星の宴 星の向 星の契 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

星の会 星の宴 星の向 星の契 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

星の会 星の宴 星の向 星の契 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

星の会 星の宴 星の向 星の契 織女 牛女 河鼓 廿七夕 お七夕

燈ろう衣 夜星祭キツ て別るゝ

乞巧 天孔のゝく 迎キツカウ

巧針 天孔のゝく 迎キツカウ

七間池 百間の池 星と名づく

芋乃葉 芋乃葉に露 玉の露

七日 七夕乃御 七日

逢乃 逢乃 七日

七夕乃鞠 七日

七日 東西ロウ 七日

七日 取灵の

七夕 七月モン 八日

文殊會 八日 東西ロウ

道祖 九日

盆入 盆入八月

盆 盆入 十六日

盆 盆入 十六日

盆 盆入 十六日

又ちりく汁出立して人めハ懐安乗乃花 十五日 今八
あるはなくハ又交あるまつ 十二月十九日
解夏草 術 古代俗名文殊日海をとりく 花火 水
節をつゝして且戒を逆とるこ
みそぎ草 花菖蒲
又稲の事ども 花菖蒲 祭 六月四日 こちやさ
祭 九七日 みさ山猪 穂屋花 蓮の花 花るりやさ
御 灵 祭 花出 十八日 相撲 いくりも花るゝ
こゝりたゝひ 幸すきひ
蟬 ちゝ蟬 うゝ蟬 蝉の蟬 蝉の蟬 胸の蟬
こゝりのちイナツヘ 蝉の蟬 蟬を入
ちゝれ香 揺書 つゝの蟬 織物の絲の
乃こ面 日蓮さ
秋風 律乃風 ちゝる花
わさの風 初嵐 身を入 身をあ
めて

ひやゝう 爽 扇置 うちわ 紈扇 木槿 草花
女郎花 朝顔 幸牛 夕顔の
実 萩 糸萩 小萩 小萩の中き 秋殿
萩れ戸 禁中 萩ある 所あり 清涼殿の小
芭蕉 小車乃花 白菊 蛍乃 蛍乃
萩 ちれ花さ 萩の上風 結梗 大正草
乃さゝ花 萩 下をさ
萩れあり ちまをこゝ 乃花 ちゝ
ちく花白しちくこと こゝ花 花咲と云 桐樣草 仙翁花
花物 ちゝ 菜師草 才切 花花 菊 紀音草 翁草

蔓に花と呂宋花白し　昼顔　花ちるとやつこ　撫子金ばち
紅色葉にてうるはしかり　ヤイトハナ
蚕豆　益母草　めうし草　若荷乃花　薙豆
垣豆　緑瓜　蕃椒　蓮麻　蓮実　美濃ハ爰なり
木瓜の実　柘榴　岩こ山花　早田むろれ
くやこせ　くくてのかゆ　秋の蚊　蜩　秋乃
胡蝶　男と結ても妹も　蛍　男と庭　秋津　赤とんぼ　鬼とんぼ
松虫　鈴虫　蓑　蟋蟀　機織
蟇虫　いぼじろ　蛙　田螺　蛙　蛙
虫　虫捉　虫合　虫籠　合虫　いとこ　こうろぎ

こうろぎ　この虫なく但こうのむし　七月ハ蓮まきむし　蓮まきの虫
雑し　秋風山吹い　文多　こなくこうろぎ
なくこいはハイ　蛙はあるし　冬虫
節　七月　蟋蟀　島と　蟋蟀　鳥屋　鳥乃巣
初鳥待　鳥ハ　山鳥ハ秋さうにはい人格のまねとしてと
くもの巣とるため　冷麦　麦　燒米
八月　仲秋　南呂　那月　中律　雁月
第月　秋風月　月又月　木はもやうくらうほく　故米月　ちうこ　南呂八月は雁也
八朔　たのひ乃祝　白帯乃節　八月　天中乃節　八月
水村祭　一月二日和泉　坂天神祭　三日四日　小野祭　四日

向殿社開帳 五日 敦賀祭 十日 清水寺 十一日京皮社六位巳上を撰て
宗廟爵を受る云 いまるとろ川 十五日 西野乃
伊勢八幡祭 十五日 志賀八幡祭 五日 豊浦祭 十五日 出門
宇佐宮祭 十五八日 月 三ヶ月 月代弓 月代弓 月代弓
月代弓 月代弓 月代弓 月代弓 月代弓

叩や　花蘭　ひとさしの花　蘆乃花　宮あれ
うやぬさ　うらたらせ　ちるさも
壇特茂　ちとよ　をかの志ま　月草　房草　葛
はくず　葛　まくらど　ちくらど　ハさくと　ちまつる　色付
うづら　ちくらどの花　葛は根をかる　鶏頭　金器草
花壇　野菊　風仙花　鶏頭　金器草
鶏冠　紅　ちまさの花　こおざさ　鴨上戸
百夜草　うづら草　通草　蓼の花　ちさで
宅ちぞ　ちる　蔦番実　鉋　玉づさ　冬瓜
猪　ちくべ　枯　冊の草　根　牛　房引

芋　いりのき　ぢんき　蕷　蕷　蕷　蕷　蕷　蕷　蕷
こらも　いもはく　蕷　蕷　蕷　蕷　蕷　蕷　蕷
茎　茎　茎　茎　茎　茎　茎　茎　茎
茎　茎　茎　茎　茎　茎　茎　茎　茎
綿　ちるり　つ　ちくば　ちさ　蔓　蔓
たくんのこ　ちくし　まく　衣
鶉　鶉　鶉　鶉　鶉　鶉　鶉　鶉　鶉
ちさ　ちさ　ちさ　ちさ　ちさ　ちさ　ちさ　ちさ　ちさ
蘇　蘇　蘇　蘇　蘇　蘇　蘇　蘇　蘇
鴨　鴨　鴨　鴨　鴨　鴨　鴨　鴨　鴨
雁　雁　雁　雁　雁　雁　雁　雁　雁
小鳥　小鳥　小鳥　小鳥　小鳥　小鳥　小鳥　小鳥　小鳥

ひて　きうんぎく　てら寺　ぶい　菊ひら花
門をこわいろう　みそ味こ　ちゃこ
もものこ　小豆　かこ加り　けしな　つこ　こわり
美くさ　ろうそ　扶の菓　こけう　ちち
うろう　たか高　ぶち打　たこ　ろう
ろう菓こ　ぶち打　ちこ　ろう
法師　あわ　下菓　くだもの　鍾菓　麻　こぶ
さりこ　うめこ　おだこ　麻　角
ろう菓　麻の毒　麻　角　麻　初鍾
江鍾　小鯛　ひこ　ぶこ　鯛ら　鯛のこ　野外　八月　初塩
八月　こぶ　大　田　田をぶく　稲菓　いねの花
ちか　ろり　炉乃田　田の庵　田　毛刀　いなの花
いろ　いろ　いろ　いろ　いろ　いろ
いろ　いろ　いろ　稲垣　稲刈　八束穂　穂後　栗刈

上ヨカル
稈刈　栗山　ぐり　そ分ぶ　ト　板　鳴子　九ユ

九月

あの月　あの栗月　小田刈月　林見月　木を伐の月
李秋　五射　五月　菊月　素秋　晩秋　霜　村
あの月　あの月　あれ　あの月　やこ　こと　こと　こと　妹　こと　妹
又末の秋　とそ　こと　ろう　本深　月　こと　もつ　ろう　五射　九月　九月　伸ろり
御灯　三日　三月　不堪田乃餐　七日　星八　法田乃接亡
て　祖　祝　と　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
あの　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう　ろう
重陽宴　九日　重九　栗ろ　節句　菊酒　菊酒　九日の礼
菊花の宴　菊酒　菜萸乃袋　菊ぶき　ぶせ　法
醍醐　九日　紙　御香　文祭　九日　鞍馬　文祭　九日
貴布禰祭　九日　生田祭　九日　四ぶ　文祭　十日
大阪　大津

卯月 高野祭 十日 例幣 十日 住吉市 十三日 白河祭 十三日 後の名月
十三夜 まつめの月 栗名月 月のぞろう 天王寺祭 十四日 岩倉祭
十九日 小倉祭 十九日 勧学会 三月と九月 霊南口祭 日日
一之祭 同日 神田明神祭 武州 度会新嘗
十六日 宮 十六日 長崎祭 同月 山口祭 中巳午ク 同場 吳服祭
十八日 市やくしの祭 十七日 日待の会池田より 彼岸利女祭 九日 高辻 宮町二有 橋庚
祭 廿日 八幡放乃沢 九日 放生会 九日上ル 城南寺祭 竹田ゆり

天王寺 祇園灌頂 九日 春祭 廿二日 牛祭 一ツリ 廿二日 浅祭 日
天満流馬 廿五日 大坂 末懐祭 廿四日 鹿茸祭 同日
逆髪祭 同寺 小小祭 廿六日 福豆神 祭 廿八日 唱歌
祭 廿八日 沖村 廿七日 野々宮乃別 桂川の御稜
宮 霜乃節 九月 菊 蛤とある 菊乃せ
菊 高菊 摘菊 菊草 大内 碑楊妃 才草 金目貫
黛菊 ちり菊 枯菊 大菊 乙女菊 金菊
女菊 十日菊の拾ユ 九月小袖
菊雲乃衣 紅葉衣 霜降乃節 九月

蔵人もみぢ　紅葉　名所の紅葉　名川の紅葉　春は花　秋は紅葉
いろくさの花　ふくらひても秋なり　梅　紅葉　櫻　紅葉　名
木蘭　花　檀　栀　まさきの紅葉　向陽木の紅葉
まさきのかづら　楓　きりとるかづら　漆　紅葉　向陽木の紅葉
柿　紅葉　色かへぬ松　いてう　銀杏　木瓜実
桜　実　梅　栗　むくげ　ちく栗　いがぐり　椎
ちのみ　ちのみ　やきぐり　木練　御所柿　柿　耳手
おちぶ　柿　熟柿　金柿　柿づき　萸　密柑
金柑　久多母　柚　柚べし　佛手柑

栗別　榴　まるめろ　果李　ろし　紅極　種
胡桃　梨　生ぶ　ありはら　ぶどう　わたらぶ　くるみ　いせの名所
苦ぶち　ぶち　櫟　榛　園栗　ひしん　松子
椋ぶ　西瓜子　柹　穀　葛花子　梅檀の
実　橘ぶ　たちの実　南天ぶ実　柚　蝿
橙　野ぶち　野山錦　紅頼　頼林　錦織の林　花のうらと　芦の
枯　仙藥　苦ま　枯ま　花ハ秋し　薄ちる
恋ぶ　苦ま　芦ぶ　穂　ちひ苦ま

ゆうんぐさ　屋敷うりくの芋ひの芋　えやこ草　つるうこん
ようんぐさ　と宝　家元　ロ

わさもりう　紙草　芝母草　おりとの
エンドウ　ジュウ　タケカリ　ちの玉
長豆　文豆　海ひく　茸　特　くさひら
ひくさけ　玉茸　よりいちあらけ　ひくさけ　ねよけ　松茸　セウロ　松茸
長ひけ　柳ひけ　天狗ひけ　茸
ヨシ子　晩田　ひつち田ウルシ　ちくたは
豆腐　我茶　今年茶　漆取　ぬく　新酒　ゆうらく　松茸
モミチ　カハラケ　ヨ　フナ　コイサケ　ぶどうしも
紅葉乃　玄蕊　紅紫　鮒　小鯉　堰の浦
ゴレ　カモ　アヒロ　ウツ　コヨ　ソテ　ツユ　ヨサム　ツユ
尾瓶の鴨　細代打　衣打　神代霜　露霜
ソコ　ツユサムシ　ダサム　アサム
房田反　房宝　肌宝　萩宝　紅宝

ヤサム　うそ寒　スガ　冷し　ヒモフル　ニカ　冊鹿　クヘクリノ　絵菊
タナ　棚ひく　ニイワタ　新綿　ふるさと　フスヘ　食べ　ホ　秋の蝶　アキフカ　秋深き
ホ　暮煙　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶
秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶　秋の蝶
冬ちう　冬と中ち　カミヨリ　住吉神送　卅日

○冬　元英　上天　玄帝　俳諧　羽音

十月

かんな月　神無月　初冬月　小春　初冬　盂冬　陽月
立冬　上冬　良月　玄冬　祈年　秦正
山月を神無月とよん伊勢冊名尚しく久月冬れんかりう
カウイ　衣服と冬の　ニウ　トウ　カミヨリ　ヨ
冬衣　ねぬ衣服　盂冬乃旬　神送　一日法祈

おりたる　一日夜より荊楚の人食之
燒糟と食　進炉炭　燒炮會
俳懐　一日夜より都の法人懐よりまゐてる米
炭立　冬ごもり　討場始　十日　殘菊賞　十日
他て思をのまゝ　十日
き　同上
奥福寺法花會　六日　維摩會　十月
さぬき　御講　十三日　下元日　十五日　水宿解厄
東福寺開山忌　十六日　夷講　九日　大祓　中旬
祢集　出雲　祢乃留主　祢迎　晦日　小雪節

十月　汁　陽明大祭　九日　炮開　火燈　冊炉
火揚　羽火揚　栗乃口切　初霜　田畑
初霜　松ぬの　赤紅　初雨　川竈
青サ　青の紅　青の紅　青の紅　青の紅
青きゆるもの　落葉　木枯　柳
初紅葉　初紅葉　初紅葉　冬木枯
楊　枯野乃雨　蔦かるゝ　蔦かるゝ
蔦かるゝ　蔦かるゝ　蔦かるゝ
枇杷乃花　栗花　冬桜丹

帷子　八重桜　宮菊　はちの花　莖
菜　蕪　二十菜　大根　葛葉　芋茎刈
納豆汁　麦蒔　初雪　初霜　初氷
蓮歩金　さゆる　月さゆる　宮雲　炭とる　けさ雪
ふくろう　網代　網代かり　氷魚　ひもの使
紫漬　釜　魚とる　子高　川ます　浦ちどり　殘子高
鴨ちどり　水高　うきね　秋　紀　鷺　をしのたん
子ちどり　鴨　あちれむ　なべちさかを　雷子高　鴨
鳥路　ふかも　れ菊　炭奥入

鴨　生海鼠　結　鰹　鱈汁　鱸　擔
炭竈　白炭　賣炭翁　熟炭　炭取　炭俵　小野炭　焼炭　炭山
綿　蒲團　紙子
今衣　ふるぎ　ふるぎ　ふるぎ　ふるぎ　ふるぎ　ふるぎ　ふるぎ
頭巾　曙　蒲
浴衣　入浴　入浴之　入浴之
宮垣　宮竿　宮籠　宮がまへ

十月

霜月　神　子月　雷乃月　辛月
炭運　天正月
国乃世ゑ八十一月を正月とそう　そと　皆安ちん天正月とつ　ゑ
ゑ八十一月乃傳之

暦数 一日て
数置 一陽乃赤節 十月八日陽十月
禊と祓 上卯日大和住吉太神宮
宗像祭 上卯日
祭 日月
宮祭 上卯日
初冬至 十月初日
芝居新見世
宮源を添
履を献ず
桐壁
山科祭 上巳日
平野祭 上申日
春日
杜本祭 日月
蓄広祭
卒川祭 上酉日
梅
南宗祭 日月
中山祭 日月
松尾祭 日月

大原野祭 中申日
園韓神祭 中丑日
吉田祭 中申日
殿上淵酔 二日
狩乃使 二日
五節 中丑日 長月
白馬
日吉祭 日月
賀茂御祓 中申日
結縄祭 中子日
豊明節会 中辰日
日吉隠岐乃祭 中申日
賀茂隠岐乃祭 中申日
三隠御神祭 下卯日
東
神祭 下酉日
小忌衣

日蔭の糸　日うけの糸

庭燎　探物　斎　神楽　乃歌　阿知女

千歳　早歌　皇　御火燈

大箭張　小箭張

みすまるの　吹草　草祭　八日　狩玉津島社

元日　元十三　元十四　元十五　大師講　お佛

車　元二日より　元八日まで　元七日　三鳥園社市　伊豆　西日

宇賀祭　山祭　初午　雪　雪見　六月祭　涼

賀茂　子　雪布袋　みぞれ　あられ　霰

氷柱　氷作　凍　氷　太刀櫻　冬至梅　水仙花

金盞　根基　雪ん下　葱　人参　生姜堀

狩　鳥叫

多武峯の慕　教訓草　千カラ久サ草　力草
多賀近　迎多狩　燈多　宮苔　綿しく
神ごらハツフル　初鰹　鮪　石花菜
ごらあ　杜史魚　はあるあ
茅ごひ　玉子酒　陸奥姜　栗酒　葛麦湯　ひぐ
脇　凍　雪餅　懇貫　雪車　よりる　橇

十二月

葉月　蠟月　冷月　大呂　極月　氷月
むつ　八月　あ　よ　仏　あ　を　ま　ま　て　ま　ひ　ま　ま　く　ま　ま　ま
く　ま　よ　ま　ま　月　と　ま　を　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
乙子朔日　人れ乙子　一日六月　忌火　御仮　一日六月
名　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一ツリ　大神祭　上卯日　天智天皇御願　四忌　三日
四月よりの　御鮮乃御上養　十日六月　月次祭　十日　祈今食
日日六月　正月寺　十三　御仏名　十九日　十九日
よれの　紙絵　仏名の寺　十九日　桓武　はの　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
御殿上　ト平日　人れ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
像　大寺日　禁中　四角門　陰陽　荷茎　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
十三　着衣乃改　お　所乃　神系　家勝
日　寺の灌頂　十音　温糟粥　八日　臘　大徳寺　忌　十二日

祭宮氏絵図　晦日夜　和布刈の神事　晦日朝　住吉の神事

追儺　晦日　爆竹　節分　五条天神祭

年の夕　寒夕　ひいらぎいわし

大原里雑魚寝　節分　吉田乃大祓　節分

小宴　節分　十二月　鶴巣

大きち　十二月　鶴焼

小晦日　除夜　年の夕

大晦日　除業　年の夕

年の夕　年の夕

祭　恵比寿　門松　いとこ煮

雑煮　餅つき　節分　雪ごろし　迷打

雑煮　餅　札納　夜部　雪　燥掃

貢　備蓄　横貢　節分　橘栗貢　星佛

宴　宴　宴　宴　宴　宴

年の夕　年の夕　年忘　年忘

義長　輪田鯉　八月鯉　鯉　早梅　毒

瞬毒
ふ笑の物　早笑楼

右四篇乃初学たるにゆうせ世学ぶ人ちさぐひ
てうづくあるんとしへぐを美邦他郷乃ことを
ひぐふ草萬葉乃世界を張本多歌風両霜
雪乃美景をあとくたとへぐきあを
ゆうぐいさ乃ちる宵ちう其物に滅亡をも
くあらぬ物をぐも撰乃こさんもいうぐなれぐ
書載俳り牧平地要を

孟宗竹冬筍あり　宮竹乃ふ

(圭)　面八句

紙ぎ紙尺を義を書を直懐に向放人
試めて所因字と嫌之但多義句祈紙尺義を書を書
え脱めるちべ一弟三をいはぐ
多句一度乃美文るれど宗匠貴人弥ゆ老人我ゆ
ちくくず但千句乃ちち月深を立て宗匠ぬる
らひみ俳ちべきえ共ゆ紙いさちくみよて
切字ぬちくを第一句乃俳のびくちゃくえ
紙やちくんかうう風雅をそゆてこそあくま
りくれ一句乃中ちり会わりくれ乃ゆぐを

まづ〳〵ちくちくとあくのいさゝ一字もわざ
かゝる和とへくるゝ母と云と偏へ一字孫と書と可考と
義句出来ゆゝへたるゝ新字をえて別義あるもの
仮者ちう白ちんと服と服部さやうにあいさつ
為つゝ字のたちうくと為んゝ浮かのうゝ者とる字あ
あきつゝくゝ仮字をあしへとまてあちゝく流吟して
服部衣類向うかつゝ物遠乃ちばうゝて白紙
しゝ多又家近て添削をあて付べき第一義白紙部
はたゞあるゝ意と顔を付ふ葉まて第一字あ

きみをかゝねご功者ちわざ多然ゞ初ん乃とる事と
かゝゝゝ唯字留ちうゝ勝乃て第三へ行ゝ
でなんやゝにとゝゝゝとゝ

第三ゝけ多りく服乃白ゝ性とゝとすゝかゝゝゝ
きゝゝ字三乃和ゝゝゝゝゝゝ根大かゝて字ちりゝゝゝ
ゝへゝゝ字多べゝ　らん数らんゝ多り常にいつゝ字ゝれゝゝ
ゝらんとゝゝゝ多ゝ服ゝゝてゝゝゝゝ三てゝ多りも
ゝゝ字ゝ多ゝゝゝやゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝへゝ文字にゝ多ゝゝ事ゝゝゝ物ゝて青ゝ白乃留

乃はたの宇紙より次第に拵(コシラヘ)たる脇の白文字にて
うひ〻敬膳帝に文字乃〻こけ〻〻だちるやうにて
ちやりこんね字かるまりおこて爲こる迄此敬り
其脇乃白にてふたをこんにて後〻こん第三と文字にて
やをこる　但白氏仕立　又書ろこ　但如やうにたまいる人は此ばりて
岩乃人こ字ひけこ爲りの如せ爲こまこ人陽こ是
又此道乃あ〻ひこ

四日　四日めふりにて也りのごの如つまこ陽りこてぬ〻めく
やを〻〻りあるもこ

五日第三てこ爲りあ〻こだこ爲ぬ宇ひ〻〻ぬりこ三てこ爲ぬこ
又ひ〻〻こだこ爲ぬ所てあ〻〻より初の面こは字
こ惑といふ懐帝(クワイテイ)に面をこ〻〻あこてこりりこた
字に白氏一稱あれば面道具(コモテダウグ)こ此白にてりうひ〻ひ
七日めめくひ〻〻ものりこ爲こ爲れこもてれこ爲こ爲り
あるにあひ〻ずこ爲れあこ爲こぬ爲白他こ是非(ゼヒ)と
こ爲こ爲こ爲りて白氏にりこ爲げこ爲ぬ爲こ爲て因べ
六日別にこあひあり一面氏こりにぬ〻これこぬやうこて
七日こ爲こ爲こも月あこ爲此所月氏こ爲こ爲功こにゆこる

べし第三式後いと乃白と蒙(キヤウムル)ら〜其中うりも
月代白又一次の後は猶乃白のもだ其おの白を老
多の白と宝さる〜
八白 七白わるは子細ありて此処りて有べからず学も自然八
白べし 又面の中同字いきく〜どてあるとんれりかハ
二白ちくくみて危安敷八きく〜る次世乃(ケウヒ)逸平(ヒヤウ)いくど
裏 連歌とかりて九白わらう扶(シキ)抵(ケウ)人(ケウ)義(ギヤウ)ムム(ジヤウ)ジ(ヤウ)ム(ジヤウ)ジ(ヤウ)ム(ジヤウ)ジ(ヤウ)

生涯乃名を書〻　玄関いわゆ〻ばとい〻とも遠り〻
げ〻〻紙云めなくる白仆も時宜よくるべし　表白
付者ゆ〻ひへ亭う乃役めあ〻ぞ文初乃一ツよ
枕草子白ゆくだ筆白枕草乃役と文表白よゆる
文字を嫌〻

百韻月花定座

面八白　七名月花定座　裏十四白　十名ゆ月の秋ゆ定べし十三名ゆ花の定座なり

二ノ面十四白　十三名月花座　二ノ裏十四白白ゆのう〻とおゆ

三ノ面十四白　二ノ面ト水ゆ　三ノ裏十四白　二のう〻とおゆ

名残面十四白　三ノ面と水ゆ

百韻月花乃白表紙乃ちゆ名残ノ表八白　月ゆ　七名ゆ花乃定座

名〻ちうまさ乃文体のちうゆ〻支に下隠ものう

●四十四

ちく〻〻さ云八百韻乃法を初ゆ名残ノ折と云ゆ〻

三三乃ゆを抜さうる絶〻ゆ花ゆ云ゆ百韻乃法と同乎也

●歌仙ノ書

面六白　五名ゆ月花定座　裏十二白　公名ゆ月の秋の白ちべ

十名ゆ花の定座

名残ノ面十二白十名ゆ月花定座　名残裏六白　五名ゆ花ゆ定座

(畫)席一可い有ル時
新宅ニ會ヒ人ヲ惱ムコトヲ多想ノ多ク變
ノ字ヲ遷ス時ハ過言ヲ用ヒザレバ世ヲウレヘラ〳〵ヲ
ラフ道ヲクルコトガヤウ故事一部中ニ加ヘザレバ世ヲ假用
ヲ忌ヲ用ヒ人ヲ加ヘ稱人モヤハラブベ
ナドヲ用ヒ〳〵ヲ連ル花神ヲ人ヲ加ヘ稱人モヤハラブベ
キトヲ量スベ貧和ヲ用ヒ其外故人ヲ選戒ヲ異一
テ友ヲ用ヒル
一出産生象　一長産ヲ

一衣裳法ヲ多際不知題　一雜句禁ル
一高吟或雜談　一隣座ノ人ハ作ヤク
一キノ人或兒ト同吉ニ吟ズル　一自分ノ句ヲ詠ズル同詠ヲ
一他句雜流作ノ句返自分句付　一他ノ句ニ付合執向云歌
一自分句付問座ヲ立　一ヲ車ヲ作合ル
一来座ヲ句数ヲ好同吉ヲ毎句ヲ作ル
一睡眠ヲクビ等
右之外ノ句作法令有ヲ〳〵ヲ恐テ有ル作ル
ヲ初学ノ人ヲ教ヒ法ヲ恐ヒテ守リヲ定ヲ初ノ人

㊤五 狩筆ゟ法橋

一ゝ三度ゟ出く貴人ゟ宗道弥宗かゝ人ゝ御世話代俵を足袋
ゝゝひゝゝと礼して帰るゝく文基にゝるべし大分祝儀
貧方貴人ゟ人ゝ御のおりゝゝ中さね方ゝゝ出べし茶産して
扇をぬき我方ゝゝ出ゝ何とゝわく動て祝とゝれおりし
盃とゝわゝれとゝ目ゝ人ゝゝ中ゝ在三五七歳ゝ祝ゝ人ゝ貴時ハ紙比祝ゝ
筆と二袋ゝゝゝ結ゝを人ゝ食ゝ文基ゝ結ゝ動くゝ後懐紙
とひゝゝて中二枚と又二ゝゝゝ中ゝ祝ゝ紙
際拍ゝゝゝゝ所ゝ重べし 文基ゝ下ニ主ハ無し

一狩筆ゝ法橋ゝゝゝゝ御前ゝゝゝゝ安産ゝゝゝゝ
ゝゝゝ乃腰紙ゝゝ上ゝゝゝ御紙ゝゝゝゝ
ゝゝゝ貴人乃御前ゝゝゝゝゝゝ様ゝ居べ
一懐帝とゝて宗化と誹諧之連歌と書べし 是歌ゝ賜ゝゝれ
それゝゝゝゝゝゝれ 紙懐ゝゝゝゝ
ゝゝゝ宗道ゝ家ゝ出ゝゝゝ編ゝて宗道ゝ方ゝ
ゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
多ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
久ハ懐帝面ゝゝく成ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一是桑ゝ人ゝ被ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝ故実人八二面も又幾度も見て但可宜くるべし
一帯とも被者とする事肩わりゞ仕くさと被ぬぎら被
者はいべし人かうろ氏ゆてらとあとしるこ
実人乃御白へ被者までもあくやゞてこれを出て被
者をゝべ一ま人ゆ白へ更元て座上乃人又へ事迎ゆ良を
るこゝ仕納のまゞこれを出て被者はいべ貴こ
一多想ゆ金へ幾白をかゝ懐帝ようゝ又基ゆ上又重こ
一ゆ出ゝこゝべその一ゆと動こ懐帝とわまゞ白お回
懐帝とわて出こ後ゆ花こて一ゆと仕てこるあり表乃

よこてひゝゝおて執筆幾白ゆ
端仕多想之誹諧とゝ幾白とゝやゞて又後べ一
服物乗ゝゝゝ考ゝゆおゝくゝけこうて出べ一幾白
と座こるり出と事一題し執筆ゆ祢ゆ代
多執ゞ執筆ゆうゝ乃ぐ子事一仕孫務之
一ゆ人ゝの白と更取こゝ紙業問ゆ事こる一如ぐ実人
御児ゝの白へ俗今七白ゆ物ありこも五白ゆ更取ゆ
て実人御児ゝの名をこん為て形ゞくこて其座こ了出事
肝要こん指合ゞこるこゆこゝ表くゝやこ寸出事

執筆乃心得事

一執筆ハ勿論一大事なりのく其席乃真体執筆次第又くらゝれ〳〵吟味専なるべくこと

（上乃句ハ二切下れ中文字ハ中ノ字ハ抜字すべし下ハ若ハ二切下れ中文字ハ中ノ字ハ抜字すべし）

懐紙ハ表裏ハ結合をうく考へ書月花ハ所とくりけ

懐紙面ハ表裏一番ハ菓子ハ菓子ハ菓子ハ

のいとをくくべ白とをとべくくべ

懐紙ハ表裏ハ結合ハ菓子ハ菓子ハ菓子ハ

BB28
赤藤